

令和 8 年 (2026)

JA てんどう病害虫防除暦

安全・安心な天童の農産物を消費者へ届けるために

- 農薬の使用基準を守り適正な防除に努めましょう。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。農薬の使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- 生産工程管理表を正確に必ず記入しましょう。
- 農薬散布時の飛散には十分注意し、住民及び環境に対する安全に努めましょう。

水 100 ℓ 当たり 農薬希釈早見表

倍率	30倍	50	100	200	250	300	350	400	450	500	600	700	750
薬剤量 g・mℓ	3,333	2,000	1,000	500	400	333	285	250	222	200	166	142	133

倍率	800倍	1,000	1,200	1,500	2,000	2,500	3,000	4,000	5,000	6,000	7,000	8,000	10,000
薬剤量 g・mℓ	125	100	83	66	50	40	33	25	20	16	14	12	10

希釈農薬量算出式（水和剤・水溶液・フロアブル・乳剤・液剤）

散布量（水：ℓ）÷ 希釈倍数 × 1,000 = 必要農薬量（g・ml）

JA てんどう
JA 全農 山形
天童市農協農畜産物安全安心推進本部

JA てんどう情報サービス

<https://www.jatendo.or.jp/>

令和8年 水稲病害虫防除基準



2025年11月1日現在

種子消毒 ※ 種子更新は毎年必ず行う。

対象病害虫	使用薬剤	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)						
いもち病・ばか苗病 苗立枯細菌病 こま葉枯病・褐条病 もみ枯細菌病 苗立枯病(リゾープス菌・トリコデルマ菌)	<div>テクリードCフロアブル</div> <div>(浸種前：1回)</div>	浸漬処理 塩水選を行い、水洗いした種もみの水を切り、200倍液(水20ℓに対してテクリードCフロアブル現物100ml)に24時間浸漬する。	<div>(1) 薬液の使用量</div> <table><tr><td>乾燥種もみ</td><td>水</td><td>テクリードCフロアブル</td></tr><tr><td>10kg</td><td>20ℓ</td><td>100ml</td></tr></table> <div>(2) 使用後の薬剤は水路や池にすてない。</div> <div>(3) 薬液の温度は極端な低水温を避けること。</div>	乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル	10kg	20ℓ	100ml	／	
乾燥種もみ	水	テクリードCフロアブル									
10kg	20ℓ	100ml									

育苗期 ※ 生もみがら・わらなどは、ばか苗病・いもち病の伝染源になるので育苗資材には使用しない。 ※ 育苗箱施用剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。

時期	対象病害虫	使用薬剤		使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
		省力体系	一般体系				
は種前 (土壌混和)	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレエースM粉剤 (は種前：1回)	粉剤は1箱当たり8g使用し、育苗箱土壌に均一に混和する。	(1) 適正酸度(PH4.5～5.5)の土壌を使用する。 (2) 人工培土を使用する場合でも混和する。	／	
は種時	苗立枯病 (ピシウム菌) (フザリウム菌) (リゾープス菌) ムレ苗防止	ナエファインフロアブル (は種時：2回以内)	—	は種時に、灌水をかねて、1箱当たり1,000倍の場合は500ml、2,000倍の場合は1ℓを灌注する。	(1) リゾープス菌・細菌性病害の発生を防ぐため、出芽の土温は30℃以上にしない。 (2) 液温を20℃前後で使用する。 (白化現象を防ぐため) (3) ムレ苗防止に使用する場合、ピシウム菌に有効。	／	
は種時～緑化期	苗立枯病 (リゾープス菌)	—	ダコニール1000 (は種時～は種14日後：2回以内)	500倍(20ml／10ℓ)液を1箱当たり500ml灌注する。		／	
育苗期	苗立枯病 (フザリウム菌) (ピシウム菌) ムレ苗防止	—	タチガレン液剤 (は種時又は発芽後：2回以内)	は種7～10日後から平均気温が10℃以下の日が2～3日続いた時はタチガレン液剤500倍(20ml／10ℓ)液を1箱当たり500ml灌注して予防する。	(1) は種時までにタチガレエースM粉剤を使用しない場合は、タチガレン液剤の代わりにタチガレエースM液剤500倍液を1箱当たり500ml灌注しても良い。(使用回数1回)	／	

育苗箱施用剤

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
は種前 ～ 移植当日	いもち病 イネミズウムシ イネドロオイムシ	ブーンパディート箱粒剤	は種前1回 は種時(覆土前)～移植当日1回	育苗箱の床土又は覆土に1箱当たり 50g を均一に混和する。 は種時(覆土前)～移植当日に1箱当たり 50g を育苗箱の上から均一に散布する。 高密度には種する場合は 1kg／10a 、育苗箱1箱当たり 50～100g を育苗箱の上から均一に散布する。	薬害が出る恐れがあるので次の事項に注意する。 (1) 軟弱徒長苗には使用しない。 (2) 茎葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水する。 (3) 移植後は、すみやかに湛水する。 ※育苗箱1箱当りに乾糞として200～300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg／10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50～100gまでの範囲で調整する。 ※箱処理剤を使用した場合は、同一場所の後作で野菜等を栽培しない。	／	

カメムシ対策	耕種の防除	① カメムシの発生密度を下げるため、常日頃から畦畔・農道などの草刈り及び水田内の除草を徹底する。 ② 出穂間近の草刈りはカメムシを水田に侵入させるので、草刈りは7月20日頃までに行ない、その後8月下旬(8月25日頃)まで草刈りは行わない。	／	
	特別防除	カメムシの発生が多い圃場では、7月上中旬にトレバン乳剤2,000倍(収穫14日前まで3回以内)を畦畔を含む水田周辺部に90ℓ／10a額縁散布する。	／	

無人航空機による防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
穂揃期 (8/7～8/12頃)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	トップジンスタークルフロアブル	収穫14日前まで3回以内	4倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) 穂いもち病防除の重要な時期なので、防除を徹底する。 (2) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	
穂揃期 7～10日後 (8/15～8/20頃)	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	エクシードフロアブル	収穫7日前まで3回以内	16倍液を10a当たり800ml 無人航空機で散布する。	(1) カメムシ類の重要な防除時期なので、畦畔を含めて防除する。	／	

個人防除体系

時期	対象病害虫	使用薬剤	適正使用基準 使用時期 使用回数	使用方法	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
7月下旬 (7月25日頃)	いもち病	コラトップ粒剤5	出穂30日前～5日前まで2回以内	湛水して10a当たり3kgそれぞれ散布する。	(1) 散布時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 (2) 紋枯病が心配される所では、モンガリット粒剤10a当たり4kg使用する。(収穫30日前まで2回以内)	／	
	カメムシ類	キラップ粒剤	収穫14日前まで2回以内				
穂揃期	ウンカ類 カメムシ類 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ	スタークル粒剤	収穫7日前まで3回以内	湛水して10a当たり3kg散布する。	(1) 散布時は湛水(水深3cm以上)にし、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	／	

水稲倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	使用回数	注意事項	月日	防除実績 (×モ)
スマレクト粒剤	出穂7～20日前	2kg	1回	(1) 散布時は湛水状態で使用する。 (2) 重複散布や多量散布にならないようにする。 (3) 散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	／	

除草剤の使用基準

- ※ 除草剤散布後7日間は落水しない。
- ※ 除草剤の散布にあたっては、畦畔等からの漏水を防止することにより、効果のアップを図る。
- ※ 移植後好天が続くと、藻類・浮草・表層はく離が多発するので、除草剤は使用適期内の早い時期に散布する。
- ※ 藻類・浮草・表層はく離が多発している水田では、拡散が不十分となり効果が劣ることがあるので注意する。

◎効果高い ○効果ある △やや劣る

体系処理 (初期＋中期)		※ いずれか一剤使用する。					※ いずれか一剤使用する。						
		初期薬剤名・使用時期		抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	使用量 (10a当たり)	月日	中期薬剤名・使用時期		抵抗性ホタルイ	抵抗性アゼナ	使用量 (10a当たり)	月日
		クラール1キロ粒剤 移植時又は移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで		○	◎	1kg	／	レプラスギア1キロ粒剤 移植後14日～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで		◎	◎	1kg	／
		クラールEW 移植直後～ノビエ1.5葉期 ただし、移植後30日まで		○	◎	500ml		テッケンジャンボ 移植後15日～ノビエ4葉期 ただし、収穫60日前まで		◎	◎	10個 (500g)	
エリジャンジャンボ 移植直後～ノビエ1葉期 ただし、移植後30日まで		○	◎	10個 (300g)	ワイドショット1キロ粒剤 移植後15日～ノビエ4葉期 ただし、収穫45日前まで			◎	◎	1kg			
		※ いずれか一剤使用する。											
一発処理剤		田											
		植											
		え											
		作											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											
		業											

大豆病虫害防除基準

				適正使用基準	月日
種子消毒（紫斑病・タネバエ）		ハト対策と合わせて、キヒゲンを乾燥種子重量の1％種子粉衣する。		は種前 1 回	／
タネバエ		カルホス微粒剤Fを6kg／10a散布し、土とよく混和する。		は種時 2 回以内	／
マメシンクイガ及び紫斑病	1 回目（8/25頃）	マメシンクイガはスミチオン乳剤1,000倍（収穫21日前まで4回以内） 紫斑病はトップジンM水和剤1,000倍（収穫14日前まで4回以内）を 混用し散布する。散布液量 100～300㍺／10a		※スミチオン乳剤は、アブラナ科野菜(ハクサイ、青菜、 ダイコンなど)に薬害がでるので注意する。	／
	2 回目（9/5 頃）				

大豆、飼料用とうもろこしの除草剤

作物	除草剤名	使用量（10a当たり）	散布時期および使用方法	注意事項	月日
大 豆	エコトップP乳剤	500ml (希釈水量 100㍺)	は種後出芽前 (雑草発生前) 1 回 全面土壌散布	(1) 畑地1年生雑草に効果を示す。 (2) 生育期の作物に付着すると、葉先が黄化する。 (3) 砂土では使用しない。	／
	エコトップP乳剤				
	ブルーシアフロアブル	50ml (希釈水量 100㍺)	生育期（とうもろこし3～5葉期） 但し、収穫45日前まで1回 雑草茎葉散布又は全面散布	(1) 展着剤は加用しない。 (2) 薬害が生ずる恐れがあるので砕土、整地及び覆土はしていないに行う。 (3) 極端な過湿土壌及び砂質土壌で使用する場合には、 生育を抑えることがあるので少なめに薬量を散布する。 (4) 砂土では使用しない。	

ねぎの防除薬剤

【害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫								IRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	アザミ ウマ類	シロイ チモシ ヨトウ	ネギハ モグリ バエ	タマネ ギバエ	ネギコガ	ネキリムシ類	ネダニ類	アブラムシ類				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗期 後半 ～ 定植 当日	ネギ		○	○		○	○		28	4A	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半 ～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、 使用土壌約1.5～4%）当り500mlを灌注。	／					
						○	○		3A		フォース粒剤	9kg	定植時	1回	定植時までの処理は1回以内（作条土壌混和）、定植後の処理は収穫30 日前まで1回以内（株元散布）。	／					
定植時	ネギ		○						4A		ベストガード粒剤	6kg	定植時	1回	植溝処理土壌混和。	／					
	○	※	○		○			○	3A		アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	※1,000倍でシロイチモシヨトウの適用あり。	／	／	／	／	／	
生育期							○		16		アブロードフロアブル	1,000倍	14日前まで	1回	株元灌注。	／					
						○			3A		ガードバイトA	3kg	生育初期	3回以内	株元散布。	／	／		／		
	○	○	※		○				30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	※ハモグリバエ類	／	／				
		○	○		○				13		コテツフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／				
	○		○	※	○			○	1B		ダイアシノン乳剤40	1,000倍	21日前まで	2回以内	※タマネギバエの場合は700倍で使用。	／	／				
	ネギ		○				○		4A		ダントツ粒剤	6kg	3日前まで	4回以内	株元散布。但し、定植時までの処理は1回以内。	／	／	／	／		
	○	○	○		○				5		ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／				
	○	○	○		○			○	21A		ハチハチ乳剤	1,000倍	7日前まで	2回以内	さび病、べと病にも適用あり（FRACコード39）。	／	／				
	○		○						34		ファインセーブフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／				
	○	○	※		○				28		ブリロッソ粒剤オメガ	6kg	前日まで	3回以内	株元散布。 但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内。 ※ハモグリバエ類	／	／	／			
	ネギ	○							UN		フレオフロアブル	1,000倍	3日前まで	4回以内		／	／	／	／		
		○	※		○				28		フレバソソフロアブル5	2,000倍	3日前まで	3回以内	※ハモグリバエ類	／	／	／	／		
	○								4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／			

●ネギはネギアザミウマ

【病害防除】

作業	適用のある病害								F R A C コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	軟腐病	葉枯病	べと病	さび病	黒斑病	小菌核腐敗病	白絹病	黄斑病				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○	○	○	○			○	11		アミスター20フロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	単剤使用。混用・展着剤不可。	／	／	／	／	
		○	○	○	○	○	○		11		メジャーフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○								P2		オリゼメート粒剤	6kg	土寄せ時、30日前まで	2回以内	土寄せ時に株元散布する。	／	／			
				○	○				3		オンリーワンフロアブル	1,000倍	14日前まで	3回以内		／	／	／		
	○		○						M1		クブロシールド	1,000倍	発病前～発病初期	—	高温時の散布は避ける。浸透性展着剤との混用不可。	／	／	／	／	／
	○								24	M1	カスミンボルドー	1,000倍	14日前まで	※2回以内	カスガマイシンを含む剤（※カスミンボルドー、カセット水和剤）の総使用回数は2回以内。	／	／			
	○								31	24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	※2回以内		／	／			
	○								31		スターナ水和剤	2,000倍	7日前まで	※3回以内	オキシリニック酸を含む剤（※カセット水和剤、スターナ水和剤）の総使用回数は3回以内。	／	／	／		
				○					3		サブロール乳剤	1,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／
			○	○	○				M3		ジマンダイセン水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内		／	／	／		
		○		○	○				3	M3	テーク水和剤	600倍	14日前まで	※3回以内	マンゼブを含む剤（※ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤、リドミルゴールドMZ）の総使用回数は3回以内。	／	／	／		
			○	○					4	M3	リドミルゴールドMZ	1,000倍	14日前まで	※3回以内		／	／	／		
			○	○	○		○		11	4	ユニフォーム粒剤	9kg	土寄せ時、45日前まで	1回	土寄せ時に株元土壌混和する。	／				
				○	○			○	11		ストロビーフロアブル	2,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／		
		○	○	○	○	○			M5		ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	3回以内		／	／	／	／	
							○		7		モンカット粒剤	4～6kg	土寄せ時、30日前まで	4回以内	土寄せ時に株元散布する。	／	／	／	／	
		○		○	○	○	○		7		パレード20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
		○		○	○		○		7		カナメフロアブル	4,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
				○					3		ラリー水和剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		／	／	／	／	
			○						21		ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内		／	／	／	／	
			○						40		レーバスフロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／			
					○	○	※		2		ロブラール水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内	※白絹病の場合は500～1,000倍、1㎡当り1%株元灌注。	／	／	／		
	○						※		U18		バリダシン液剤5	500倍	前日まで	2回以内	※白絹病の場合は株元散布。	／	／			

●展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

ほうれんそうの防除薬剤

【害虫防除】

作業	適用のある害虫					I R A C コード		薬 剤 名	使用方法			注 意 事 項	使用実績（使用月日）						
	アブラムシ類	アシクロハモ クリバエ	ホウレンソウ ケナガコナダニ	ヨトウムシ	ハスモン ヨトウ				ネキリムシ類	使用量・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数		使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
は種前			○			○	3A		フォース粒剤	9kg	は種前	1回	全面土壌混和。	／					
生育期	○					○	3A		アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／	
	○						4A		アドマイヤーフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内	アザミウマ類にも適用あり。	／	／				
			○			○	6		アフーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／				
		○	○			○	15		カスケード乳剤	4,000倍	3日前まで	3回以内	脱皮阻害剤なので遅効性。	／	／	／			
						○	30		グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アザミウマ類にも適用あり。	／	／				
			※				10B		ネコナカットフロアブル	1,000倍	3日前まで	2回以内	葉の裏表に十分に散布する。 ※ケナガコナダニ類	／	／				
						○	28		フレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	シロオビノメイガにも適用あり。	／	／	／			

【病害防除】

作業	適用のある病害	FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
					倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
は種前	べと病・白斑病	4	11	ユニフォーム粒剤	9kg	は種前	1回	全面土壌混和。	／					
生育期	べと病・白斑病	P7		アリエッティ水和剤	1,500倍	前日まで	2回以内		／	／				
	べと病・立枯病・根腐病	U17		ビシロックフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	耐雨性○ 予防的に散布する。	／	／				
	べと病	21		ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	耐雨性○ 予防的に散布する。	／	／	／			
	べと病	40		レーバスフロアブル	2,000倍	3日前まで	2回以内	耐雨性○	／	／				

こまつなの防除薬剤

【病害虫防除】

作業	適用のある病害虫	I R A C コード		F R A C コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
						倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
は種前又は定植前	根こぶ病			36	ネビジン粉剤	30kg	は種又は定植前	1回	全面土壌混和。つまみ菜、間引き菜には使用しない。	／		
				21	オラクル粉剤	20kg	は種前又は定植前	2回以内	全面土壌混和。	／	／	
は種前	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	3A			フォース粒剤	4kg	は種前	1回	全面土壌混和。	／		
は種時	キスジノミハムシ、ネキリムシ類	1B			ダイアシノン粒剤5	6kg	は種時	1回	は種時では全面土壌混和。出芽時では土壌表面散布（ネキリムシ類のみ適用）。	／		
生育期	白さび病			21	ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／
				11	アミスター20フロアブル	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／	
	アブラムシ類	4A			モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回	キスジノミハムシにも適用あり。	／		
		3A			アグロスリン乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／	
	コナガ	15			カスケード乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アオムシ・マメハモグリバエにも適用あり。	／	／	
		30			グレーシア乳剤	3,000倍	7日前まで	1回	アオムシ・アザミウマ類にも適用あり。	／		
		6			アフーム乳剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／	
		28			フレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリバエ類にも適用あり。	／	／	

トマトの防除薬剤

【 害虫防除 】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫								I R A C コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）						
	ハダニ バミ類	アブラ ムシ類	アサミ ウマ類	コナジ ラミ類	トマト ハダニ	ナミ ハダニ	オオタ バコガ	ハモリ トリ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目		
育苗期後半	○	○	○	○					28		ベリマークSC	25ml／400株	育苗期後半 ～定植当日	1回	株当たり25ml 灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	／					
定植時	○	○		○					4A		ベストガード粒剤	2g／株	定植時	1回	植穴処理土壌混和。	／					
生育期				ハダニ				○	○	15	アタフロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	脱皮阻害作用があるので遅効性。	／	／	／			
		○		オンシツ						3A	アディオソ乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ビレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す。	／	／	／			
	○			○	○		○			6	アフアーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／	
		○	ミカンキイロ	○						29	ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／	／	／	
	○		○	○	○		○	○		30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／				
			ミカンキイロ		○	○	○			13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
				○						4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／				
	○	○		○						4A	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
	○		○	○			○	○		5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／				
	○						○			28	プレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／			
	○						○	○		UN	プレオフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内		／	／				
		○	○	○						4A	ベストガード水溶剤	1,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
		○	○	○						4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
	○	○	○	○					23		モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。 浸透移行性あり、残効性あり。	／	／	／			

●ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

●タバコはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）

●オンシツはオンシツコナジラミ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害								FRAC コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	苗立枯病	輪紋病	すすかび病	葉かび病	灰色かび病	菌核病	うどんこ病			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
育苗期		○							M4	オーソサイド水和剤80	800倍	は種後から2～3葉期	5回以内	ハダニあたり2株をジョウロまたは噴霧器で灌注。	／	／	／	／	／
生育期				○	○	○	○	○	7	アフエツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ハダニあたり2株をジョウロまたは噴霧器で灌注。	／	／	／		
					○	○			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で葉害のおそれあり。 浸透性展着剤のニーズは使用しない。	／	／	／	／	
					○	○	○		1	10ゲッター水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
	○		○	○	○	○		○	M5	ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内	T P Nを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ハダニセイバー）の総使用回数は3回以内。	／	／	／	／	
	○				○				40	M5プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	T P Nを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ハダニセイバー）の総使用回数は4回以内。	／	／	／		
	○				○			○	3	M3テーク水和剤	800倍	前日まで	2回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／			
				○	○			○	3	M3トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
						○			9	フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で葉害のおそれあり。 予防的に散布する。	／	／	／	／	
	○			○	○	○		○	7	M5ハダニセイバー	1,000倍	前日まで	3回以内	ハダニセイバーを含む剤（アフエツフロアブル、ハダニセイバー）の総使用回数は3回以内。 T P Nを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ハダニセイバー）の総使用回数は4回以内。	／	／	／		
					○	○			M7	ベルコート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／		
	○								21	ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
			○	○	○	○	○	○	11	7シグナムWDG	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			

ミニトマトの防除薬剤

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫						I R A C コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	ハダニ類	アブラムシ類	アザミウマ類	コナジラミ類	トマトハダニ	オオタバコガ				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
育苗期後半	○	○	○	○			28		ベリマークSC	25ml／400株	育苗期後半～定植当日	1回	株当たり25ml 灌注処理。 浸透移行性あり、残効性あり。	／					
定植時	○	○		○			4A		ベストガード粒剤	2g／株	定植時	1回	植穴処理土壌混和。	／					
生育期				ハダニ		○	15		アタフロン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／	／			
		○		オオタバコガ			3A		アディオソ乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	ビレスロイド剤特有の速効的ノックダウン効果を示す。	／	／	／			
	○			○	○	○	6		アフアーム乳剤	2,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／	
		○	ミカンキイロ	○			29		ウララDF	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／			
	○		○	○	○	○	30		グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／				
			ミカンキイロ		○	○	13		コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	ナミハダニにも適用あり。	／	／	／			
				○			4A		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／				
	○	○		○			4A		ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
	○		○	○		○	5		ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／				
	○					○	28		プレバソソフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／			
		○	○	○			4A		モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
			○	○	○	○		23		モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。 浸透移行性あり、残効性あり。	／	／	／		

●ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

●タバコはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）

●オンシツはオンシツコナジラミ

【 病害防除 】

作業	適用のある病害						FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	疫病	輪紋病	葉かび病	灰色 かび病	菌核病	うどん こ病				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期			○	○	○	○	7		アフエツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／		
			○	○	○		1	10	ゲッター水和剤	1,500倍	前日まで	3回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／		
	○	○	○	○		○	M5		ダコニール1000	1,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／			
			○			○	3		トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。 すすかび病にも適用あり。	／	／	／	／	／
				○			9		フルピカフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	高温時の散布で葉害のおそれあり。	／	／	／	／	
			○	○			M7		ベルコート水和剤	6,000倍	前日まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／			
	○	○	○				M3		ペンコゼフフロアブル	1,000倍	前日まで	2回以内	ペンコゼフフロアブルは、すすかび病にも適用あり。	／	／			
	○						21		ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
	○	○	○	○	○	11	7	シグナムWDG	2,000倍	前日まで	2回以内	すすかび病にも適用あり。	／	／				

とうもろこしの防除薬剤（スイートコーン）

【 害虫防除 】

作業	適用のある害虫				I R A C コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）			
	アブラムシ類	アワノメイガ	アワヨトウ	オオタバコガ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目
生育期	○	※			3A		3,000倍	14日前まで	4回以内	※2,000倍でアワノメイガに適用あり。	／	／	／	／
	○				4A		4,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／	
		○			1B		4～6kg	14日前まで	2回以内	雄穂抽出始めとその10日後の2回散布する。	／	／		
		○	○		3A		1,000倍	7日前まで	4回以内		／	／	／	／
		○		○	28		4,000倍	前日まで	2回以内		／	／		
		○		○	28		2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／	

きゅうりの防除薬剤

【害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある害虫					I R A C コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハダニ類	フリノメイガ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
定植時	○	オンシツ	○			1B	ジェイエース粒剤	3～6kg (1～2g/株)	定植時	1回	定植時、作条散布又は植穴処理。	／				
	○	○	○			4A	スタークル粒剤	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和。	／				
	○	○	○			28	ブリロッソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布。ハモグリハエ類にも適用あり。	／				
生育期	○	オンシツ				3A	アディオソ乳剤	3,000倍	前日まで	3回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用をさける。	／	／	／		
		オンシツ幼虫				16	アブロード水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内	成虫を直接殺す作用がないので幼虫主体の時期に散布。	／	／	／		
	○	○				29	ウララD F	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／		
		○		○	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリハエ類にも適用あり。	／	／			
			ミカンキイロ	○	○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
		○		○		6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	1,000倍でハモグリハエ類にも適用あり。	／	／			
	○	○	○			4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／			
			○		○	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日まで	2回以内	ハモグリハエ類にも適用あり。	／	／			
					○	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	ハスモンヨトウにも適用あり。	／	／	／		
	○	○	○		○	21A	ハチハチ乳剤	1,000倍	前日まで	2回以内	うどんこ病・べと病・褐斑病にも適用あり。 (FRACコード39)	／	／			
	○			○		1B	マラソン乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	1,000倍でウリハムシに適用あり。	／	／	／		
	○	○	○		○	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○	○	○	○		23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	遅効性のため早めに使用する。	／	／	／		

※オンシツはオンシツコナジラミ ※ミカンキイロはミカンキイロアザミウマ

【病害防除】

作業	適用のある病害									F R A C コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	うどんこ病	べと病	斑点細菌病	褐斑病	炭疽病	灰色かび病	菌核病	つる枯病	黒星病				倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
定植時			○							P2		オリゼメート粒剤	6～7.5kg (5g/株)	定植時	1回	植穴土壌混和。	／					
生育期	○					○	○			7		アフエツフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／			
	○	○	○							24	M1	カスミンボルドー	1,000倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／	
	○					○				NC		カリグリーン	800倍	前日まで	—	展着剤を必ず加用する。	／	／	／	／	／	
	○				○	○	○	○	○	1		トップジンM水和剤	2,000倍	前日まで	5回以内	チオファネートメチルを含む剤（トップジンM水和剤、グッター水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	／	／	／	／	／	
				○	○	○	○			1	10	グッター水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内	ジエトフェンカルブを含む剤（グッター水和剤、スミブレンド水和剤）の総使用回数は5回以内とする。	／	／	／	／	／	
				○		○	○			10	2	スミブレンド水和剤	1,500倍	前日まで	5回以内		／	／	／	／	／	
	○	○		○	○	○			○	M5		ダコニール1000	1,000倍	前日まで	12回以内	TPNを含む剤（ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル）の総使用回数は12回以内とする。	／	／	／	／	／	
	○	○		○					○	40	M5	プロボース顆粒水和剤	1,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／			
	○	○		○	○				○	21	M5	ドーシャスフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内	シアソファミドを含む剤（ドーシャスフロアブル、ランマンフロアブル）の総使用回数は4回以内とする。	／	／	／	／		
		○								21		ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／		
	○								○	3		トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／	
		○	○	○	○	○			○	○	M3		ジマンダイセン水和剤	600倍	前日まで	3回以内	※2,000倍で褐斑病に適用あり。	／	／	／		
	○			※	○	○				M7		ベルコート水和剤	4,000倍	前日まで	7回以内	／		／	／	／	／	
	○									M10		モレスタン水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	予防、治療効果あり。コナジラミ類にも適用あり。（I R A CコードUN）	／	／	／			
○									3		ラーイー水和剤	5,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／		
	○								45	40	ザンプロDMフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／				

なすの防除薬剤

【害虫防除】

作業	適用のある害虫									I R A C コード	薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）				
	アブラムシ類	ヨトウムシ	コナジラミ類	テントウムシ類	ハダニ類	ハマキトリ	オオタバコガ	ハモグリハエ類	ミナミキイロアザミウマ			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
定植時	○							○	アザミウマ類	4A	スタークル粒剤	1g/株		1回	植穴土壌混和。	／				
	○								アザミウマ類	4A	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	定植時	1回	植穴又は株元土壌混和。根に直接ふれないように注意。	／				
	○		○					○	アザミウマ類	28	ブリロッソ粒剤オメガ	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布。	／				
生育期	○		オンシツ	○					○	3A	アディオソ乳剤	2,000倍	前日まで	3回以内	訪花昆虫に対して影響が少ない。	／	／	／		
	○		○						○	29	ウララD F	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
			○		○	○	○	○	アザミウマ類	○	30	グレーシア乳剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／		
		○		○	○	○	○		○	13	コテツフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
			○		○			○		6	コロマイト乳剤	1,500倍	前日まで	2回以内	水なすに使用しない。炎天下を避け夕方に散布する。	／	／			
				○					○	25A	スターマイトフロアブル	2,000倍	前日まで	1回		／				
	○		○	○				○	ミナミキイロ	4A	ダントツ水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
			○			○	○	○	アザミウマ類	5	ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／			
					○	○				28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
					○	○	○	○	アザミウマ類	UN	ブレオフロアブル	1,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
	○		※	○					アザミウマ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	前日まで	3回以内	※コナジラミ類には2,000倍で散布する。	／	／	／		
	○		○		○				アザミウマ類	○	23	モベントフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／	

●オンシツはオンシツコナジラミ ●ミナミキイロはミナミキイロアザミウマ

【病害防除】

作業	適用のある病害								FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
	菌核病	すす かび病	半身 萎凋病	うどん こ病	灰色 かび病	黒枯病	褐色 腐敗病	褐紋病					倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数		使用回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
生育期		○		○						11		アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	耐性菌出現防止のため連用を避ける。浸透性を高める効果のある展着剤（ニース等）は使用しない。	／	／	／	／	
		○		○						3		トリフミン水和剤	3,000倍	前日まで	5回以内	耐性菌出現防止のため連用は避ける。	／	／	／	／	／
		○		○	○	○				M5		ダコニール1000	1,000倍	前日まで	4回以内		／	／	／	／	
		○		○	○					M7		ベルコート水和剤	3,000倍	前日まで	3回以内		／	／	／		
	○				○	○		○		1		ベンレート水和剤	2,000倍	前日まで	3回以内	1株当たり200～300ml土壌灌注。	／	／	／		
			○						500倍				定植後～14日前まで								
				○						21		ランマンフロアブル	2,000倍	前日まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	

ばれいしょの防除薬剤

【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	I R A C コード	F R A C コード	薬剤名	倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	注意事項	使用実績（使用月日）				
4月	植付前	ケラ、ネキリムシ類	1B		ダイアジノン粒剤5	4～6kg	植付前	1回	全面土壌混和又は作条土壌混和。	／				
5月	生育期	疫病、夏疫病		M5	ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	5回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	／
		アブラムシ類	4A		アクトラ顆粒水溶剤	3,000倍	14日前まで	3回以内	2,000倍でテントウムシダマシ類にも適用あり。	／	／	／		
		疫病、菌核病		29	フロンサイドSC	2,000倍	7日前まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	
		アブラムシ類、オオニジュウヤホシテントウ	4A		アドマイヤー顆粒水和剤	15,000倍	14日前まで	2回以内		／	／			
6月		疫病		21	ランマンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／	

キャベツの防除薬剤

【病害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード		FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）						
								倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目		
8月	定植前	根こぶ病			36		ネビジン粉剤	20～30kg	は種又は定植前	2回以内	全面土壌混和。	／	／					
				21		オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	／		／						
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B			ジェイエース粒剤	3～6kg （1～2g/株）	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	／							
		ネキリムシ類	3A			フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和。	／							
	発生時	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類			スラゴ	5g/㎡	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	／	／	／	／	／			
9月	生育期	コナガ、アオムシ、ウワバ類、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、アザミウマ類、ハイマダラノメイガ	30				グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／					
		アオムシ、ウワバ類、カブラハバチ類、コナガ、シロイチモジヨトウ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	4E				フィールドマストフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内		／	／					
		べと病			M3		ジマンダイセン水和剤	400倍	30日前まで	3回以内		／	／				／	
		黒腐病、黒斑細菌病、軟腐病			31	24	カセット水和剤	1,000倍	7日前まで	3回以内		／	／				／	
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、アザミウマ類	4A				ダントツ水溶剤	2,000倍	3日前まで	2回以内		／	／					
		ヨトウムシ、オオタバコガ、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類、ウワバ類	5				ディアナSC	2,500倍	前日まで	2回以内		／	／					
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、ウワバ類、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ	UN				ブレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		／	／					
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ、アザミウマ類	21A		39		ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		／	／					
10月		べと病、根朽病			M5		ダコニール1000	1,000倍	14日前まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／					
		アオムシ、ウワバ類、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28				ブレバソフフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／				／	
		オオタバコガ、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、アブラムシ類	3A	1B			ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	／	／				／	／

- 展着剤は、水和剤、フロアブルに加用する。

はくさいの防除薬剤

【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード		FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）						
			10a	使用時期 収穫前日数	使用回数	1回目		2回目	3回目	4回目		5回目						
8月	は種前 定植前	根こぶ病			36		ネビジン粉剤	20～30kg	は種又は 定植前	1回	全面土壌混和。	／						
				21		オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	／		／						
	定植時	アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ	1B				ジェイエース粒剤	3～6kg (1～2g/株)	定植時	1回	定植時植穴処理。根に直接ふれないように。	／						
		ネキリムシ類	3A				フォース粒剤	4kg	定植時	1回	全面土壌混和。	／						
	発生時	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類				スラゴ	5g/㎡	発生時	－	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	／	／	／	／	／	／	
9月	生育期	アオムシ、アザミウマ類、ウワバ類、オオタバコガ、コナガ、シロイチモジヨトウ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	30				グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		／	／					
		アオムシ、ウワバ類、カブラハバチ類、キスジノミハムシ、コナガ、シロイチモジヨトウ、ダイコンハムシ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	4E				フィールドマストフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内		／	／					
		べと病、黒斑病、白斑病			M3		ジマンダイセン水和剤	600倍	30日前まで	1回		／						
		軟腐病、黒斑細菌病			31	24	カセット水和剤	1,000倍	21日前まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／					
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ	4A				ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	2回以内		／	／					
		ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ	UN				ブレオフロアブル	1,000倍	7日前まで	2回以内		／	／					
		アブラムシ類、アオムシ、コナガ、ハイマダラノメイガ	21A		39		ハチハチ乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内		／	／					
10月		べと病、黒斑病、白斑病、白さび病			M5		ダコニール1000	1,000倍	7日前まで	2回以内	予防的に散布する。	／	／	／				
		白さび病、べと病、ビシウム腐敗病			21		ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	4回以内	予防的に散布する。	／	／	／	／			
		アオムシ、オオタバコガ、コナガ、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ	28				ブレバソフフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	浸透移行性あり。	／	／	／				
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、オオタバコガ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ	3A	1B			ハクサップ水和剤	1,000倍	前日まで	5回以内	抵抗性害虫出現防止のため連用を避ける。	／	／	／	／	／	／	／

だいこんの防除薬剤

【病害虫防除】（秋冬取り）

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード		FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
			倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数	1回目		2回目	3回目	4回目		5回目					
8月	は種前	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	1B				ネマトリンエース粒剤	20kg	は種前	1回	全面土壌混和。	／					
	は種時	キスジノミハムシ、アブラムシ類	4A				スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和。	／					
		アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ類、ネキリムシ類、ハイマダラノメイガ	28				ブリロソッ粒剤オメガ	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和。	／					
			ネキリムシ類	3A				ガードベイトA	3kg	は種時～生育初期	4回以内	株元散布。	／	／	／	／	
黒斑細菌病、軟腐病					31	24	カセット水和剤	1,000倍	14日前まで	3回以内	／	／	／				
9月	生育期	ナメクジ類、カタツムリ類	未分類				スラゴ	5g/㎡	発生時	—	ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置。	／	／	／	／	／	
		アオムシ、カブラハバチ類、キスジノミハムシ、コナガ、ダイコンハムシ、ハイマダラノメイガ、ヨトウムシ	4E				フィールドマストフロアブル	4,000倍	3日前まで	2回以内	／	／					
		コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ類、ハモグリハエ類	28				ブレバソフフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内	／	／					／
		アブラムシ類、キスジノミハムシ、アオムシ、コナガ、カブラハバチ	4A				モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	1回	／						
		アブラムシ類、ヨトウムシ、アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ、カブラハバチ	3A	1B			ハクサップ水和剤	2,000倍	35日前まで	3回以内	／					／	／
10月		白さび病、ワッカ症			21		ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／			
		アオムシ、コナガ、キスジノミハムシ	5				スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日前まで	3回以内	／	／	／				
		アブラムシ類、ダイコンハムシ	4A				ダントツ水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	アブラムシが多い場合。	／	／				

せいさいの防除薬剤

【病害虫防除】

農薬検索（せいさいは非結球あぶらな科葉菜類・たかなに含れます）

月	作業	適用のある病害虫	IRAC コード		FRAC コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
								倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
9月	は種前	根こぶ病			36		ネビジン粉剤	20～30kg	は種又は	1回	全面土壌混和。	／		
	定植前				21		オラクル粉剤	20～30kg	定植前	2回以内		／	／	
	は種前	ネキリムシ類、キスジノミハムシ	3A			フォース粒剤	4kg	は種前	1回	全面土壌混和。	／			
	は種時	アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A			スタークル粒剤	6kg	は種時	1回	播溝土壌混和。	／			
	生育期	コナガ、ハモグリバエ類	28			ブレバソフフロアブル5	2,000倍	前日まで	2回以内	／	／			
		アオムシ、アザミウマ類、コナガ	30			グレーシア乳剤	3,000倍	7日前まで	1回	／				
		アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、キスジノミハムシ、ナモグリバエ	4E			フィールドマストフロアブル	4,000倍	前日まで	2回以内	／	／			
		白斑病			11		ストロビーフロアブル	3,000倍	7日前まで	2回以内	単用散布。 予防的に散布する。	／	／	
10月	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ	6			アフーム乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内	／	／	／			
11月	白さび病			21		ランマンフロアブル	2,000倍	3日前まで	3回以内	予防的に散布する。	／	／	／	
	アブラムシ類、キスジノミハムシ	4A				モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	7日前まで	1回	／				

えだまめの防除薬剤

【病害虫防除】

RACコードは農薬の成分分類を表す数字です。抵抗性発現防止のため同系統の薬剤が連用にならない様に注意しましょう。

作業	適用のある病害虫	I R A C コード		F R A C コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）		
							倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目
は種前	紫斑病、苗立枯病、タネバエ	4A	12	4	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg当り 20ml （原液塗沫処理）	は種前	1回	1回	カラス・ハトは豆類(未成熟)で適用あり。 チウラム剤処理種子には使用しない。	／	／	／
	カラス、ハト												
	アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ												
は種時	ネキリムシ類、タネバエ	1B			カルホス微粒剤F	6kg	は種時	1回	1回	土壌表面散布、土壌混和処理。	／	／	／
	アブラムシ類	4A			アドマイヤー1粒剤	3kg	は種時	1回	1回	播溝土壌混和。	／	／	／
生育期	べと病			11	アミスター20フロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内			／	／	／
	べと病、茎疫病、斑点細菌病			40	M1フェスティバルC水和剤	600倍	前日まで	3回以内			／	／	／
	菌核病、灰色かび病			2	ロブラール水和剤	1,000倍	30日前まで	3回以内		予防的に散布する。	／	／	／
	英汚損症、紫斑病			1	10ゲッター水和剤	1,500倍	7日前まで	3回以内			／	／	／
	アブラムシ類、アザミウマ類、コガネムシ類、ハダニ類	1B			マラソン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内		1,000倍でマメシクイガ、ハモグリハエ類に適用あり。	／	／	／
	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	4A			ダントツ水溶剤	2,000倍	前日まで	3回以内			／	／	／
	アブラムシ類、ハモグリハエ類、カメムシ類、ダイズサヤタマハエ	4A			スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内		3,000倍でフタスジヒメハムシに適用あり。	／	／	
	マメシクイガ、カメムシ類、フタスジヒメハムシ	3A			アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで	3回以内			／	／	／
	ウコンノメイガ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、マメシクイガ	28			ブレバソンフロアブル5	4,000倍	3日前まで	3回以内			／	／	／
	マメシクイガ、カメムシ類、ハスモンヨトウ	3A			トレボン乳剤	1,000倍	14日前まで	2回以内			／	／	
	ハスモンヨトウ	28			フェニックスフロアブル	2,000倍	前日まで	3回以内		4,000倍でウコンノメイガ、ネキリムシ類に適用あり。	／	／	／

カリフラワー・ブロッコリーの防除薬剤

【病害虫防除】

月	作業	適用のある病害虫	I R A C コード		F R A C コード		薬剤名	使用方法			注意事項	使用実績（使用月日）					
								倍数・ 使用量（10a）	使用時期 収穫前日数	使用回数		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
8月	育苗期 後半	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28				バリマークSC	400倍	育苗期後半 ～定植当日	1回	セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット 1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～ 4%）当り0.5%を湛注する。	／					
	定植前	根こぶ病			36		ネビジン粉剤	20～30kg	又は定植前	1回	全面土壌混和。	／					
				21		オラクル粉剤	30kg	定植前	2回以内	／		／					
	は種時 又は 定植時	ネキリムシ類、ケラ	1B				ダイアジノン粒剤5	4～6kg	は種時又は 定植時	2回以内	全面土壌混和又は作条土壌混和。 但し粒剤の生育期の処理は1回以内。	／	／				
9月	生育期	アオムシ、コナガ、ハスモンヨトウ	28				ブレバソンフロアブル5	2,000倍	前日まで	3回以内		／	／				
		黒斑細菌病、花蕾腐敗病			M1		クプロシールド	1,000倍	発病前 ～発病初期	－	薬害が生ずる恐れがあるため、花蕾形成期ま でに散布する。 はなやさい類で登録。	／	／	／	／	／	
		※花蕾腐敗病、※黒斑細菌病、軟腐病			31		スターナ水和剤	2,000倍	14日前まで	2回以内	※花蕾腐敗病、黒斑細菌病はブロッコリーに のみ適用あり。	／	／				
		アブラムシ類	29				ウララDF	2,000倍	14日前まで	2回以内	ブロッコリーの使用時期は前日まで。	／	／				
10月		菌核病、黒すす病			11		ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	3日前まで	3回以内	はなやさい類で登録。	／	／	／			
		アザミウマ類、アブラムシ類	1B				マラソン乳剤	2,000～3,000倍	3日前まで	5回以内		／	／	／	／	／	
		アザミウマ類、ウワバエ類、アオムシ、 コナガ、ハスモンヨトウ	30				グレーシア乳剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	はなやさい類で登録。	／	／				
		アブラムシ類、コナガ、アオムシ	4A				モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	14日前まで	3回以内	カリフラワーの使用時期は7日前まで。	／	／				／

● 展着剤は、水和剤に加用する。

野菜除草剤主要適用作物

作物名 除 草 剤 名	ねぎ	ほうれんそう	こまつな	トマト	ミニ トマト	とうもろこし	きゅうり	なす	ばれいしょ	キャベツ	はくさい	だいこん	せいさい	えだまめ	備考	
バスタ液剤	収穫前日まで 2回以内	収穫7日前まで 2回以内		収穫前日まで 3回以内		収穫7日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内		収穫21日前まで 2回以内	収穫45日前まで 2回以内		収穫7日前まで 2回以内	耕起前・は種前・は種後 出芽前・定植5日前まで 3回以内		※1参照	
													収穫前日まで (畦間処理) 3回以内			
ザクサ液剤	収穫前日まで (定植前又は畦間処理) 2回以内	収穫7日前まで (は種前又は畦間処理) 2回以内		収穫前日まで (定植前又は畦間処理) 3回以内			収穫前日まで (定植前又は畦間処理) 3回以内		収穫21日前まで (畦間処理) 2回以内	収穫45日前まで (定植前又は畦間処理) 2回以内	収穫45日前まで (は種・定植前又は畦間処理) 2回以内	収穫45日前まで (畦間処理) 2回以内	収穫7日前まで (は種・定植前又は畦間処理) 2回以内	収穫14日前まで (は種・定植前又は畦間処理) 3回以内		
サンダーポルトO7	耕起前又は定植7日前まで 3回以内	耕起前又は定植7日前まで 1回	耕起前又は定植7日前まで 1回	耕起前又は定植7日前まで 1回	耕起前又は定植7日前まで 1回		耕起前又は定植7日前まで 1回		耕起前又は定植7日前まで 1回	耕起前又は定植7日前まで 1回		耕起前又はは種7日前まで 1回	耕起前又は定植7日前まで 1回	耕起前又はは種10日前まで 1回	1. 土壌が流にたり、崩れたりする おそれのある所では使用しない。 ※2参照	
ラウンドアップマックスロード	収穫30日前まで (定植後畦間処理) 3回以内	耕起前又はは種前まで 3回以内	耕起前まで 1回	耕起前まで 1回	耕起前まで 1回	出芽前まで 2回以内	収穫前日まで (畦間処理) 2回以内		耕起前又は播付前まで 1回	耕起前又は定植5日前まで 1回		収穫5日前まで (畦間処理) 2回以内	耕起前まで 1回	収穫前日まで (畦間処理) 2回以内	※2参照	
草枯らし	定植後畦間処理 但し、収穫30日前まで 3回以内	耕起又は定植7日前まで 1回					耕起又は定植7日前まで 1回		耕起又は定植7日前まで 1回	耕起又は定植7日前まで 1回		耕起又はは種7日前まで 1回	耕起又は定植7日前まで 1回	は種7日前まで 1回	1. 展着剤の加用は必要ない。 2. 散布前に雑草の地上部を刈り 払わない。 ※2参照	
トレファノサイド粒剤2.5	定植後雑草発生前 但し、収穫30日前まで 2回以内			(露地栽培) 定植前(播穴掘前) 1回			(露地栽培(直播栽培)) は種直後 1回		植付後～萌芽前 1回	(移植栽培) 定植前(播穴掘前) 1回	(直播栽培) は種直後 1回	(直播栽培) は種直後 1回			定植前(播穴掘前) 1回	※3参照
トレファノサイド乳剤			は種直後 1回 (非結球あぶらな科葉菜類として登録)			(露地栽培(移植栽培)) 定植前(播穴掘前) 1回	(移植栽培) 定植前(播穴掘前) 1回	(露地栽培) は種直後 1回 (非結球あぶらな科葉菜類として登録)		は種直後 1回						
ラッソー乳剤		は種直後 1回					は種後出芽前 1回			定植8日後まで 1回		は種直後 1回	は種直後 1回	は種後出芽前 1回	1. 砂壌土では使用しない。 2. 雑草発生前は効果がないので 発芽前に散布する。	
アーシラン液剤		は種後～子葉展開期 1回													1. 子葉展開期以降は品種により 薬害のおそれがあるので、使用 しない。	
ゴーゴーサン乳剤	定植後(雑草発生前) 但し定植10日後まで 1回						は種後出芽前 (雑草発生前) 1回		植付後萌芽前 (雑草発生前) 1回	定植前 (雑草発生前) 1回	定植前 (雑草発生前) 1回				1. キク科雑草及びツユクサに 効果がある。 2. 必ず雑草発生前に散布する。	
ブリグロックSL	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫3日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理：収穫3日前まで 5回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫14日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫3日前まで 3回以内	萌芽直前 3回以内 畦間処理：収穫前日まで 2回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫30日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫30日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内 畦間処理：収穫30日前まで 3回以内	は種前又は植付前 3回以内	畦間処理：収穫14日前まで 4回以内	1. 極めて即効性のため、作物への 直接散布は避える。	
ナブル乳剤	収穫30日前まで 1回	収穫7日前まで 1回	収穫7日前まで 1回 (非結球あぶらな科葉菜類として登録)	収穫14日前まで 1回					収穫前日まで 2回以内	収穫14日前まで 1回		収穫7日前まで 1回 (非結球あぶらな科葉菜類として登録)	収穫14日前まで 1回	1. イネ科植物(スズメノカタビラ を除く)にのみ殺草作用あり。 2. イネ科雑草3～5葉期に 使用すること。		
ロックス	(露地栽培) 定植後但し、収穫30日前まで (雑草発生前) 1回								植付直後～萌芽前 1回					本薬3葉期以降は効果がある 場合があるので、時期を失し ないように散布する。 2. 砂質土壌では使用しない。		
クレマート乳剤	定植後(雑草発生前)但し定植10日後まで 1回						定植前 (雑草発生前) 1回	定植前又は定植・マルチ前 (雑草発生前) 1回	植付後萌芽前 (雑草発生前) 1回	定植前(雑草発生前) 1回					1. 発芽前処理剤なので、必ず雑草 の発生前に処理する。	

※使用する前に、必ず農薬のラベルをよく確認して下さい。

- ※1. バスタ液剤・ザクサ液剤は、同一成分であるグリホシネートを含んでいるため総使用回数に注意する。
- ※2. サンダーポルトO7・ラウンドアップマックスロード・草枯らしは、同一成分であるグリホサートを含んでいるため総使用回数に注意する。散布前に雑草の地上部を刈り込む。
- ※3. 薬害のおそれがあるため、なす（露地）に使用する場合、定植3日前までに使用する。
トレファノサイド粒剤2.5・トレファノサイド乳剤は、同一成分であるトリフルラリンを含んでいるため総使用回数に注意する。
必ず雑草発生前に散布する。

果樹病虫害防除基準

総合防除

耕種的防除、物理的防除、化学的防除を組み合わせた防除

- 病虫害に侵された葉、枝、果実を取り除き、適切に処分する。
- 夏期管理においても徒長枝や邪魔な枝の剪除に努め、薬剤が十分にかかるようにする。
- 越冬病虫害の密度を下げるために粗皮けずりを行う。清耕栽培か中耕栽培を行い、草生園でも草刈り、除草を徹底する。
- 樹勢が弱まると病虫害に侵されやすくなるので、土づくり肥料や有機質などの適正量の投入により健全な樹勢を保つ。
- 枝や幹に薬剤を十分に散布する。
- 気象条件に合わせた防除を行う。(干ばつや継続的な降雨などの気象条件の時は特に留意する)
- 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。
- 薬剤散布を行う場合、気温25℃以上の時は散布を控える。
(散布後、急激に温度が上がることが予想される場合も散布を控える)
- 薬剤調合時、鉄分を多く含む水は、果実の表面に障害を生じるので使用しない。

生物的防除

交信かく乱剤（性フェロモン剤）利用による防除

性フェロモンは昆虫が体外に分泌し、性行動を支配している重要な物質です。交信かく乱剤は人工的に合成した性フェロモンを園地内に充満させ、雌雄の交尾を阻害し、次世代の密度を抑制する防除方法です。

薬剤名	対象作物	設置時期	10a当り 使用量	対象害虫								
				ハマキムシ類			シンクイムシ類			モモハモ グリガ	コスカシ バ	ヒメボク トウ
				ミダレカ クモンハ マキ	リンゴコ カクモン ハマキ	リンゴモ ンハマキ	モモシン クイガ	ナシヒメ シンクイ	スモモヒ メシンク イ			
コンフューザーN	果樹類	4月20日頃	150～200本	(○)	○	○	○	○				
	すもも		200本						○			
コンフューザーR	果樹類 (りんご)		100本	○	○	○	○	○				
コンフューザーMM	果樹類 (もも)		120本	(○)	○	(○)	○	○		○		
ナシヒメコン	果樹類		4月20日頃	100本					○	○		
	西洋なし							○				
				7月中旬	50～100本					○		
ハマキコンーN	果樹類	5月20日頃	150本	○	○	○						
スカシバコンL	果樹類		50～100本	さくらんぼ、もも、すもも（プルーン）、うめ、かき等で使用							○	
ボクトウコンーH	果樹類	6月上旬	100本	りんご、日本なし等								○

- ※ (○) は、害虫登録はない。
- ※ 総合的に防除が可能なコンフューザーNを基本とする。

使用方法

- 交信かく乱剤の所定本数(コンフューザーN150～200本／10a)を越冬世代の発生初期の4月20日頃まで園地に設置する。
- 設置場所は目通りの高さに8割、残り2割を園地の周辺に多めに設置することが望ましい。
- また、効果を高めるために、地域全体で設置する。

利用上の留意事項

- ①小面積(1ha以下)では、設置区域外にいる既交尾雌が圃場内に飛び込んで産卵するため効果が劣るので、出来るだけ地域全体で設置する。
- ②性フェロモン成分は空気よりも重いため、傾斜地や起伏の多い場所では傾斜上部の設置を1～2割多くする。
- ③対象病虫害の発生密度が高いと雌雄の遭遇確率が高くなり、交尾阻害効果が期待できなくなる。
- ④風の強い場所で利用する場合は、フェロモンの流亡を防ぐため、防風ネットなどを利用する。
- ⑤対象害虫や対象外害虫が発生した場合には、殺虫剤による補完防除が必要となるため、圃場の害虫発生動向を観察する。
- ⑥交信かく乱剤は複数年続けて使用することによって、対象害虫の発生密度を低減させる効果がある。

～ 苗木・未結実樹の防除について ～

※ 近年、樹脂細菌病による枝枯れや苗木の枯死が増えてきております。定植から成木までの期間は下記により防除を徹底して下さい。

苗木消毒

植え付け前に、トップジンM水和剤 ５００倍液に１０分間根部を浸漬する。（対象樹種：りんご・もも・なし 植付前１回）

○ さくらんぼ

回数	防除時期	対象病虫害	薬剤名	倍数	注意事項
1	休眠期（発芽前）	越 冬 病 害 虫	石灰硫黄合剤	10倍	（1）定植時に発芽していない場合は、石灰硫黄合剤10倍を散布する。
	定植時 （発芽～発芽7日後）	樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー66D	40倍	
2	4月中旬～5月上旬	灰 星 病 褐 色 せ ん 孔 病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー66D	40倍	（1）樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってトップジンMペーストを塗布する。（3回以内） （2）ハマキムシ類の発生が心配される場合は、バイオマックスDF2,000倍を散布する。
3	6月10日頃	褐 色 せ ん 孔 病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー66D	40倍	（1）害虫防除は、さくらんぼの防除基準を参考に行う。（殺ダニ剤は除く）
4	7月10日頃	褐 色 せ ん 孔 病 炭 疽 病	トレンノックスフロアブル	500倍	
		ハ ダ ニ 類	コロマイト乳剤	1,000倍	
5	8月10日頃	褐 色 せ ん 孔 病 炭 疽 病	ＩＣボルドー66D または トレンノックスフロアブル	40倍 500倍	
6	9月上旬～9月中旬	褐 色 せ ん 孔 病 樹 脂 細 菌 病	ＩＣボルドー66D	40倍	
7	落葉後 （11月上旬～12月上旬）	越 冬 病 害 虫 樹 脂 細 菌 病	石灰硫黄合剤 または ＩＣボルドー66D	10倍 40倍	（1）秋期に定植を行う場合は、定植後直ちにこれらの薬剤のいずれかを散布する。

○ りんご・西洋なし

回数	防除時期	対象病虫害		薬剤名	倍数	注意事項
		りんご	西洋なし			
１	休眠期（発芽前）	腐らん病 カイガラムシ類 ハダニ類	越冬病虫害 カイガラムシ類 ハダニ類	石灰硫黄合剤	１０倍	
２	落花１週間後 （５月中旬）	輪紋病 腐らん病	輪紋病 胴枯病	トップジンM水和剤	１,０００倍	（１）胴枯病（西洋なし）の萎凋枯死花そうや枯死枝を徹底して取り除き処分する。切口にはトップジンＭペーストを塗布する。（３回以内）
３	６月中旬	輪紋病 黒星病	輪紋病	ＩＣボルドー４１２	３０倍	
４	７月上中旬	輪紋病 黒星病 （ハダニ類）	輪紋病 （ハダニ類）	ＩＣボルドー４１２	３０倍	（１）ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤２,０００倍を散布する。
５	梅雨明け直後 （７月下旬）	輪紋病 黒星病	輪紋病 （胴枯病）	ＩＣボルドー４１２	３０倍	
６	８月中旬	輪紋病 黒星病	輪紋病	ＩＣボルドー４１２	３０倍	

○ もも・すもも

回数	防除時期	対象病虫害	薬剤名	倍数	対象病虫害	注意事項
		もも			すもも	
１	発芽前	カ イ ガ ラ ム シ 類 ハ ダ ニ 類 縮 葉 病	スプレーオイル 石灰硫黄合剤	５０倍 １０倍	カ イ ガ ラ ム シ 類 ハ ダ ニ 類	
		せ ん 孔 細 菌 病 縮 葉 病		３０倍	黒 い よ う 病	
３	５月中旬	灰 星 病 ・ 黒 星 病 せ ん 孔 細 菌 病 ア ブ ラ ム シ 類	トレノックスフロアブル マイコシールド モスピラン顆粒水溶剤	５００倍 ２,０００倍 ２,０００倍	炭 疽 病 黒 斑 病 ア ブ ラ ム シ 類	
４	５月２５日頃	せ ん 孔 細 菌 病 灰 星 病 ・ 黒 星 病 枝 折 病	トレノックスフロアブル トップジンM水和剤	５００倍 １,０００倍	炭 疽 病 黒 星 病 ・ 灰 星 病	
５	６月２５日頃	灰 星 病 ・ 黒 星 病 ホ モ ブ シ ス 腐 敗 病	ナリアWDG フェニックスフロアブル ダニオーテフロアブル	２,０００倍	灰 星 病 黒 星 病	
		ハ マ キ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ		４,０００倍	シ ン ク イ ム シ 類 ケ ム シ 類 ハ マ キ ム シ 類	
		ハ ダ ニ 類		２,０００倍	ハ ダ ニ 類	
６	８月１０日頃	ア ブ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類 モ モ ハ モ グ リ ガ	モスピラン顆粒水溶剤	２,０００倍	ア ブ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類	
７	９月中旬	せ ん 孔 細 菌 病 縮 葉 病 コ ス カ シ バ	ＩＣボルドー４１２ フェニックスフロアブル	３０倍 ４,０００倍	黒 い よ う 病 コ ス カ シ バ	

※ 新規に定植を行う場合は、排水対策を徹底し、せん孔細菌病対策として防風ネットを必ず設置する。

除 草 剤 使 用 基 準

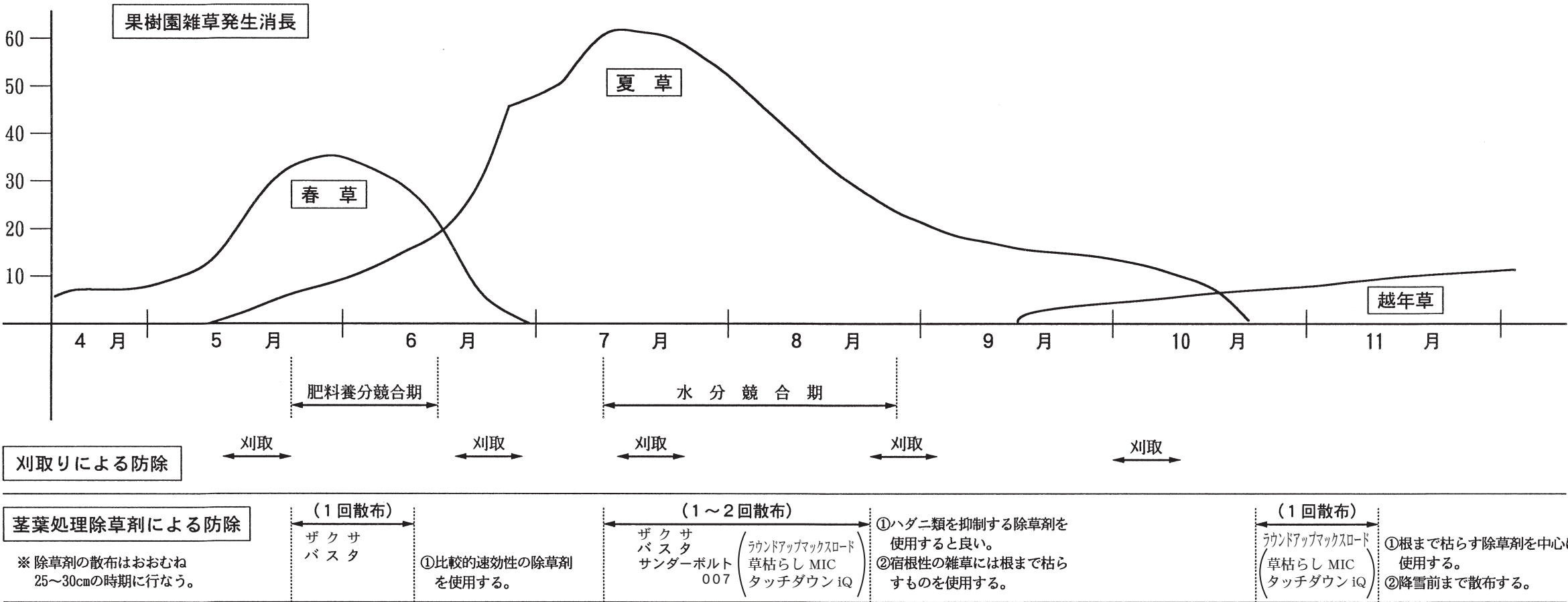
1 果樹園に除草剤を使用する場合の一般的留意事項

- ① 果樹は一度薬害にあうと回復するのに数年もかかることがあるので、使用にあたっては十分注意する必要がある。
- ② 散布する水量は10 a 当たり150ℓを標準とし、草丈の大きいときは水量を増す必要がある。普通の農薬と違い希釈倍数でなく、単位面積当たりに投下される薬量で示されるので、水の量を多少かえてもよいが、散布むらのないよう注意する。
- ③ 散布はなるべく晴天無風の日に行ない、噴霧する霧を粗くして、吹き上げたり、風に飛ばされたりして、果樹の枝葉（とくに下枝）にかからないようにする。できるだけ除草剤専用噴口を使用する。
- ④ 草丈が30 cm 以上になると、効果が劣るので時期を失しないように使用する。
- ⑤ 展着剤加用の場合は、除草剤専用のものを使用する。
- ⑥ 散布機具や容器は専用のものを使用する。
- ⑦ 散布に使用した器具及び容器を洗浄した水や残液は、川や池等に流入しないよう注意する。

※ ダニ剤散布予定日の7日前に除草剤を使用する。

果 樹 園 の 雑 草 管 理 (基 本)

2 果樹園での除草剤使用時期



3 果樹園用主要除草剤使用方法

除草剤名	適用樹種	10a当たりの散布液量	10a当たりの使用薬量	効果の発現	効果の持続期間	使用場面	備 考
タッチダウンiQ	果樹類 (かんきつを除く)	25～100ℓ _{スギナ(25～50ℓ)}	1年生 250～500ml 多年生 500～1,000ml (スギナ 1.5～2.0ℓ _{スギナ})	3～5日後 7～10日後	60日	夏草生育期 秋期越冬生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。
サンダーボルト007		100ℓ	1年生及び多年生 400～1,000ml	2～5日後	60～70日	春草・夏草生育期	1. 展着剤は加用せずむらなく散布する。 2. スペリヒュ(ひょう)・ギシギシに効果が高い。
草枯らしMIC		50～100ℓ	1年生 250～500ml 多年生 500～1,000ml	7～14日後		秋期越冬生雑草	1. グリホサートを含む剤について下記で整理して記載する。
クサクリーン液剤		50～100ℓ	1年生 200～500ml 多年生 500～1,000ml (スギナ 1.5～2.0ℓ _{スギナ})	3～5日後		夏草生育期 秋期越冬生雑草	1. 展着剤は加用しない。 2. 少量(25ℓ)散布の時は専用ノズルを使用する。 3. 25倍で処理すると、スギナにも効果が高い。 4. 多年生強害雑草には高濃度でスポット処理も可能。
ラウンドアップマックスロード		100～150ℓ	1年生 300～500ml 多年生 500～1,000ml	2～5日後	40～50日	春草・夏草生育期	
ザクサ液剤	りんご、ぶどう、もも、なし、 かき、さくらんぼ、 小粒核果類、ネクタリン、 ブルーベリー	100～150ℓ	1年生 300～500ml 多年生 500～1,000ml	2～5日後	40～50日	春草・夏草生育期	1. りんご、ぶどうは少量(30～40ℓ)散布登録あり。 少量散布の時は専用ノズルを使用する。

※ サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤はパイナップルに適用がない。

4 除草剤主要適用作物

除草剤名	成 分	薬 剤 特 性	水田畦畔	ぶ ど う	さくらんぼ	う め	り ん ご	な し	か き	も も	す も も (ブルー)	く り	樹 木 類
タ ッ チ ダ ウ ン i Q	グリホサート を含む剤	根まで 枯らす	収穫14日前まで 2回以内	収穫5日前まで 3回以内									雑草生育期 4回以内
サンダーボルト007			収穫14日前まで 2回以内	収穫7日前まで 3回以内									—
草 枯 ら し M I C			収穫14日前まで 2回以内	収穫7日前まで 3回以内									雑草生育期 4回以内
ク サ ク リ ー ン 液 剤			収穫前日まで 3回以内	収穫7日前まで 3回以内									雑草生育期 4回以内
ラウンドアップマックスロード			収穫前日まで 3回以内	収穫7日前まで 3回以内									雑草生育期 4回以内
ザ ク サ 液 剤	グルホシネート を含む剤	地上部 のみ	収穫7日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内			収穫21日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内				収穫30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内
バ ス タ 液 剤			収穫7日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内			収穫21日前まで 3回以内	収穫前日まで 3回以内				収穫30日前まで 3回以内	雑草生育期 3回以内

※ グリホサートを含む剤(ラウンドアップマックスロード、タッチダウンiQ、サンダーボルト007、草枯らし、クサクリーン液剤)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ グルホシネートを含む剤(ザクサ液剤、バスタ液剤等)は同一成分の為、総使用回数に注意する。

※ 雑草生育期の草丈は30cm以内(作物によっては20cm以内)まで処理を行う。

紋羽病対策

土壤灌注

薬 剤 名 フロンサイドSC

作物名	適用病害虫	使用時期	使用回数	希釈倍数	使用方法	
りんご	白紋羽病 〔紫紋羽病 りんごのみ〕	収穫４５日前まで	１回	５００倍	５００倍の場合 １樹当たり５０～１００ℓ土壌灌注	灌注水量が １００ℓ以上 必要な場合、 １,０００倍液 を処理する。
なし		収穫３０日前まで		または		
ぶどう		収穫２１日前まで		１,０００倍		
もも		収穫３０日前まで				
さくらんぼ		収穫３０日前まで			５００倍	

※ 土壌灌注は対象樹だけでなく広範囲に実施した方が効果が高い。

※ 生育期間中でも紋羽病の影響で生育が思わしくない場合は土壌灌注を行う。なお、その場合、収穫前使用日数を厳守する。

系統別農薬一覧

殺虫剤						
IRACコード	系統名	農薬名	IRACコード	系統名		農薬名
1A	カーバメート系	オリオン	11A	BT系		バイオマックス ファイブスター デルフィン エスマルク エコマスター チューンアップ トアロー
1B	有機リン系	スミチオン ダイアジノン ガットキラ ジェイエース エルサン オルトラン マラソン				
3A	合成ピレスロイド系 (注意: 魚類に対する毒性が極めて強い)	アグロスリン バイスロイド スقاフト テルスター トレボン アディオン ロディー	14	ネライストキシン系		バダン
4A	ネオニコチノイド系	モスピラン ダントツ バリアード スタークル アクダラ アドマイヤー ベストガード	16	IGR系	キチン合成阻害	アブロード アタフロン カスケード ノーモルト
4C	スルホキシミン系	トランスフォーム	18			
5	スピノシン系	ディアナ	28	ジアミド系		フェニックス エクシレル サムコル プレバゾン テッパン
9B	ピリジン アゾメチン誘導体	コルト	29	吸汁阻害剤		ウララ
			30	イソオキサゾリン系		グレーシア

殺菌剤(主として糸状菌用)							
FRACコード	系統名	農薬名	予防・治療	FRACコード	系統名	農薬名	予防・治療
1	MBC殺菌剤	ベンレート トップジンM	予防 治療剤	BM2	微生物剤	エコホープDJ ボトキラー	予防剤
2	ジカルボキシイミド系	ロブラール スミレックス	予防 治療剤	M1	有機銅剤	オキシジンドー キノンドー ドキリン (オキシラン)	予防剤
3	DMI(EBI) (エルゴステロール生成阻害)	インダー オンリーワン スコア マネージ サンリット オーシャイン トリフミン テクリード	予防 治療剤	M3	有機硫黄	アントラコール ジマンダイセン トレノックス ベンコゼブ	予防剤
7	SDHI	パレード フルーツセイバー カナメ	予防 治療剤	M7	ビスグアニジン系	ベルコート	予防剤
3+7	DMI+SDHI (混合剤)	アクサー	予防 治療剤	M9	キノン	デラン	予防剤
11	ストロビリリン系 (QoI)	アミスター ストロビー ファンタジスタ スクアラ フリント (ナリア)	予防 治療剤	M11	マレイミド系	ストライド	予防剤
25	抗生物質	アグレプト マイコシールド	予防 治療剤	P7	ホセチル	アリエッティ	予防剤
52	DHODHI	ミギワ	予防 治療剤	U18	トレハラーゼ阻害	バリダシン	予防剤

殺 害 二 剤 の 登 録 一 覧 表

(2026年用)

JA全農山形 資材エネルギー部 肥料農薬課

2025年11月28日 作成

JRA コード	薬 剤 名	ナニバダニリンゴのフコ								感受性の 低下実績	オゾット ハグニ 第1	チャ ネコグ ザニ 第1	サビタニ 第1	8'ド・濃 ・潤滑	希 釈 倍 数										特 性	注 意 事 項						
		原	液	粉	粒	錠	錠	錠	錠						りんご	おうとう	も	ぶどう	な し	きゅうり	トマト	な す	すいか	いちご			メロン	かき	蜜 (花き)	食用 さく	ばら	
25A	ダニサラフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	×	×	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果がある。 ・天敵その他の有用動物に対して影響が少ない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・有線栽培の洋なしに使用する場合は、実葉の裏面に立つおそれがあるので、袋かけ前散布はしない。 ・アリエンツァCと混用する場合、スターマイトフロアブルを先に実施する。 ・他に小根株果類、ピーマン、花き類、観葉植物等で登録あり。 ・スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラフロアブルは使用しない。		
	スターマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	・ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・有線栽培の洋なしに使用する場合は、実葉の裏面に立つおそれがあるので、袋かけ前散布はしない。 ・アリエンツァCと混用する場合、スターマイトフロアブルを先に実施する。 ・他にピーマン、花き類、小根株果類等で登録あり。 ・ダニコングフロアブル、スターマイトフロアブル等の天敵に対する影響が少ない。 ・他に小根株果類、食用ほすき、りんどう、ピーマン等で登録あり。 ・ダニサラフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。	
25B	ダニコングフロアブル	△	○	○	△	○	○	○	有り	(○)	×	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	—	3,000	3,000	3,000	3,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	・ハダニの幼虫・成虫に対して効果がある。 ・天敵その他の有用動物に対して影響がない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・他にピーマン、花き類、小根株果類等で登録あり。 ・ダニサラフロアブル、スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニコングフロアブルは使用しない。
10B	ハロックスフロアブル	○	○	×	○	○	×	○	有り (9割)	(○)	×	○ (確報)	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	・成虫に対する活性は高いが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。 ・ホルドー液散布後14日前まで使用し、ホルドー液散布後は使用しない。 ・ホダニの幼虫期以降の使用は注意する(果樹除害) ・すもも、花き類、観葉植物にも登録あり。	
33	ダニオーテフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	無し	(○)	×	×	×	1,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	・天敵・有用生物への影響が少ない。 ・餌を含む飼料との混用および近接散布で効果が低下する恐れがあるため、以下に気を付ける。 ①適量を守る ②オート散布から前期散布までは10日以上開隔をあける ③前期散布後は散布しない。 ・ハダニ被害への登録あり。	
21A	ピラニカEW	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	—	1,000	1,000	—	—	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	1,000	—	2,000	—	2,000	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺戟が強い) ・葉に対して影響があるので農園にからないようにする。 ・ハダニの幼虫期以降に散布がはじかることがあるので農園にからないようにする。 ・EWA花き類・観葉植物(うろこ)、きくもみへて登録あり。 ・サンマイト、ダントロンを使用した場合、抵抗性出現防止のためピラニカEWは使用しない。	
	ピラニカ水和剤	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	—	—	—	—	—	—	—	—	2,000	—	—	—	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺戟が強い) ・葉・ツツパチに対して影響があるので注意する。 ・フロアブル用は、ピーマン、食用ほすきのコンナリタニに登録あり。 ・水回りはすもも、キウイフルーツに登録あり。 ・フロアブル用は、キウイ、メロンに使用する際は産卵と産卵期や幼虫期は散布に注意を生じる恐れがあるため避ける。 ・ダニコングタケカを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。	
	サンマイト水和剤	△	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	—	—	—	—	—	—	1,000	—	—	—	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺戟が強い) ・石炭硫黄剤との混用は避ける。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないように注意する。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないので、花き等に薬剤が付着する恐れのある時期には使用を避ける。 ・キウイフルーツ、うめ、ミトマト、ほうれんそう、ピーマン、花き類・観葉植物にも登録あり。 ・サンマイトはタケカを混用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。	
	サンマイトフロアブル	△	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	—	—	—	—	—	1,000	—	—	—	—	—	—	—	1,000	1,000	—	—	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺戟が強い) ・石炭硫黄剤との混用は避ける。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないように注意する。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないので、花き等に薬剤が付着する恐れのある時期には使用を避ける。 ・キウイフルーツ、うめ、ミトマト、ほうれんそう、ピーマン、花き類・観葉植物にも登録あり。 ・サンマイトはタケカを混用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。	
	ダントロンフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	—	1,000	・原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺戟が強い) ・石炭硫黄剤との混用は避ける。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないように注意する。 ・葉に長期毒性があるものの農園にからないので、花き等に薬剤が付着する恐れのある時期には使用を避ける。 ・キウイフルーツ、うめ、ミトマト、ほうれんそう、ピーマン、花き類・観葉植物にも登録あり。 ・サンマイトはタケカを混用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。	
	20B	カネマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	×	有り	(○)	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	・アリエンツァCと混用する場合、カネマイトを先に希釈し使用する。 ・天敵・有用昆虫に対する影響が少ない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。 ・すもも、すもも、うり類(漬物類)、ピーマンにも登録あり。
20D	マイトコーネフロアブル	△	○	○	△	○	○	○	有り	(○)	×	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	・ミツパチ・蜜およびカリブダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・ホルドー液との混用は避け、近接散布は速に14日以上休ませる。 ・なしに使用する場合は、9月以降の使用を避ける。また、高温・乾燥時には葉害を避けるため使用しない。 ・小根株果類、ミニトマト、ピーマン、食用ほすきにも登録あり。	
6	コロマイト水和剤	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	2,000	—	—	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	・葉に長期毒性があるため、農園にからないように注意すること。 ・ミツパチに被害の影響があるので注意すること。 ・刺戟性薬剤に比較して、葉害を生じることがあるものの乳用牛用飼料への使用に注意すること。 ・乳剤は作物によってはコナジラミ類、トマトザビニ、ハマグリハダニ等で登録あり。 ・乳剤は小根株果類、ピーマン、ミニトマト、食用ほすきにも登録あり。	
23	ダニグッターフロアブル	○	○	△	○	△	○	△	無し	(○)	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	・ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 ・残効力が高く、成虫にたいして不作用を示す。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・新幹線開業の日本なし(二十世紀を越す)に使用する場合は、以下の事項に注意する。 (1) 樹木、樹木、果実、果実を食害する天敵は、食害を生じることがあるので使用しない。 (2) 有線栽培の日本なしと同様の散布および10日以内の近接散布は葉害を生じる恐れがあるので避ける。 ・あうとうに使用する場合は、長期散布に注意を生じることがあるので、葉の硬さを確認して使用する。 ・キャベツ、はくさい、きつぽう、なす、ぶらごに対しては、注意を生じることがあるので、付近にある場合からないように注意すること。 ・開花期の水稲に本剤がかかった場合、不飽和などの葉害を生じる場合があるので、使用を避ける。 ・日本なしに使用する場合は、葉害を生じることがあるので、使用を避ける。特に長期散布に注意する。
13	コトゾフロアブル	○	○	○	○	×	×	×	有り	(○)	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	・ミツパチ・蜜およびカリブダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・刺戟性薬剤に比較して、葉害を生じることがあるので、葉の硬さを確認して使用する。 ・乳剤は作物によってはコナジラミ類、トマトザビニ、ハマグリハダニ等で登録あり。 ・乳剤は小根株果類、ピーマン、ミニトマト、食用ほすきにも登録あり。	
—	アカリタニ乳剤	×	○	○	×	○	○	○	無し	(○)	(○)	(△)	×	2,000	2,000 ～ 3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	2,000 ～ 3,000	・ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。 ・残効力が高く、成虫にたいして不作用を示す。 ・ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。 ・新幹線開業の日本なし(二十世紀を越す)に使用する場合は、以下の事項に注意する。 (1) 樹木、樹木、果実、果実を食害する天敵は、食害を生じることがあるので使用しない。 (2) 有線栽培の日本なしと同様の散布および10日以内の近接散布は葉害を生じる恐れがあるので避ける。 ・あうとうに使用する場合は、長期散布に注意を生じることがあるので、葉の硬さを確認して使用する。 ・キャベツ、はくさい、きつぽう、なす、ぶらごに対しては、注意を生じることがあるので、付近にある場合からないように注意すること。 ・開花期の水稲に本剤がかかった場合、不飽和などの葉害を生じる場合があるので、使用を避ける。 ・日本なしに使用する場合は、葉害を生じることがあるので、使用を避ける。特に長期散布に注意する。	

※1：（ ）内に表示されている記載については、各県ならびに本会農業研究室の試験結果ならびにメーカーの情報を参考に県本部独自で評価した内容となっています。

※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。なお、記載している希釈倍率については、登録温度の高い希釈倍率のみを記載しています。

※各薬剤井、ボルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるので留意願います。

果樹
(4)

防除時期		対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㍓)		農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (×○)	
休眠期		カイガラムシ類 →	① スプレーオイル	50倍 (2㍓)	発芽前 —	350㍓	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。 (2) 灰星病の発生を防止するため休眠期中に全面耕うんし、地表面の乾燥をはかる。 (3) 灰星病防除のため樹上のミウラ果を除去し埋没する。 (4) カイガラムシ類の発生が多い園地は、太枝にブラジかけを行い、天気の良い温暖な日を選び散布する。 (5) 前年灰星病の発生が多かった園地では、トップジンM水和剤1,000倍(14日前まで3回以内)を加用散布する。	/		
		カイガラムシ類幼虫 →	② アブロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内					
大玉生産と摘果作業の労力削減のため、3月中旬～4月上旬に摘芽を行う。										
灰 星 病 重 点 防 除	開花直前	幼果菌核病・灰星病 褐色せん孔病・炭疽病	① トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	21日前まで 5回以内	450㍓	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/		
		ハマキムシ類 ケムシ類	② バイオマックスDF	2,000倍 (50g)	前日まで —					
	満開期 (平年 佐藤錦 4月25日頃)	幼果菌核病 褐色せん孔病 灰星病 黒斑病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500㍓	(1) 前年幼果菌核病の多い園地では散布時期が遅れない様に注意する。 (2) 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を削り取ってキズの癒合促進のため、トップジンMペーストを塗布する。(3回以内) (3) 前年、炭疽病の発生した園地ではオーソサイド水和剤80 800倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。 (4) キャプタンを含む剤(オキシラン水和剤、オーソサイド水和剤80)の総使用回数は5回以内とする。	/		
		② ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内						
	前回散布7日後	灰星病 褐色せん孔病 炭疽病	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500㍓	(1) 訪花昆虫の活動前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。 (2) オーソサイド水和剤80は、ももの発芽後の若葉に葉害が発生するおそれがあるので飛散に注意する。	/		
		② オーソサイド水和剤80	800倍 (125g)	3日前まで 5回以内						
	ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。									
	前回散布7日後 (5月中旬)	灰星病 黒かび病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500㍓	(1) 灰星病、ナミハダニの発生を防止するため、この時期以降園地の草刈を徹底する。 (2) 前年、褐色せん孔病の発生が多かった園地では、オーソサイド水和剤80 800倍(3日前まで5回以内)を加用散布する。オーソサイド水和剤80は、ももの発芽後の若葉に葉害が発生するおそれがあるので飛散に注意する。 (3) ハマキムシ類の発生が多い園地では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで2回以内)を加用散布する。	/		
			② ロブラール水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内					
			③ モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 1回					
	フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【 コスカシバ対策はスカシバコンL 50～100本/10a 】								/	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。									
前回散布10日後 (5月下旬) 被覆前散布	灰星病 →	① スコア顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500㍓	(1) この回以降収穫が終わるまで展着剤は使用しない。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (3) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/			
	ショウジョウバエ類 カメムシ類 →	② テルスターフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内						
	ハダニ類 →	③ ダニオーテフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 1回						
○ 摘果が遅れた場合には、摘果した果実を適正に処理する。 ○ 果実は、適期収穫を行い、過熟果にならないうちに収穫を終了する。 ○ 病虫害果・キズ果・過熟果等のもぎ残しは、きれいに収穫し処分(土中に埋める)する。										
6月上旬	灰星病 →	① カナメフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内	500㍓	※この時期のショウジョウバエの発生に注意する。	/			
	オウトウショウジョウバエ カメムシ類 →	② スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内						
6月中旬	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類 →	① ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500㍓	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に葉害が生じるおそれがあるので注意する。	/			
	② エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内							
6月下旬	灰星病・炭疽病・黒斑病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類 カメムシ類 →	① オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500㍓	(1) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/			
	② テルスターフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内							
7月上旬 (晩生種)	灰星病・黒斑病・炭疽病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ ハマキムシ類 →	① ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内	500㍓	(1) 今回以降、収穫が終わらない場合は、灰星病・黒斑病対策としてオンリーワンフロアブル2,000倍(前日まで3回以内)、オウトウショウジョウバエ対策としてダントツ水溶剤2,000倍(前日まで2回以内)を散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ビオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に葉害が生じるおそれがあるので注意する。	/			
	② エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内							
褐色せん孔病・炭疽病対策として、雨よけハウスの被覆を外したら降雨前に薬剤散布を行う。										
収 穫 後 重 点 防 除	収穫直後	褐色せん孔病 アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ →	① トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	21日前まで 5回以内	500㍓	(1) ダニ剤を散布する場合は、ダニ剤散布4日前に草刈を実施し、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト乳剤1,000倍(7日前まで1回)を単用散布する。(展着剤は加用しない) コロマイト乳剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に葉害のおそれがあるので注意する。 以降も、ハダニ類の発生が続く園地では、カネマイトフロアブル1,000倍(7日前まで1回)にアカリタッチ乳剤2,000倍(前日までー)を加用し散布する。(展着剤は加用しない)	/		
		② ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	14日前まで 2回以内						
		ハダニ類 →	③ ダニゲッターフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 1回					
	7月中下旬 (前回散布14日後)	せん孔病 →	① アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500㍓	収穫終了後～落葉期まで 3回以内	/		
			② オキシラン水和剤	600倍 (166g)						
	8月上旬	せん孔病 → カイガラムシ類幼虫 →	① オキシラン水和剤	600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで 3回以内	500㍓	※ウメシロカイガラムシ重点防除時期(第2回孵化期)ウメシロカイガラムシの発生が多い園地では8月上旬散布7日後にバリアード顆粒水和剤4,000倍を追加散布する。(前日まで2回以内)	/		
			② アブロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内					
	9月上中旬	コスカシバ ハマキムシ類 →	① フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	500㍓	(1) 灰星病、褐色せん孔病の発生が多い園地では落葉後清耕し、越冬菌の密度を下げる。	/		
	9月中旬 ～ 落葉後	褐色せん孔病 樹脂細菌病 →	① ICボルドー66D	40倍 (2.5kg)	発病前～発病初期 —	400㍓	(1) 褐色せん孔病の発生が多い園地では、9月中旬に必ず散布する。さらに、翌年の越冬菌密度を低下させるため、落葉後も必ず散布する。	/		

令和8年 もも病害虫防除暦



防除時期		対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)		農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
大玉生産と摘果作業の労力削減の為、開花前までに摘らいを行う。									
発芽前 (平年発芽 3月19日頃)	カイガラムシ類 灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 カイガラムシ類幼虫	①	スプレーオイル	50倍 (2%)	発芽前—	350%	(1) 前年度の灰星病の被害果及び被害枝は徹底して除去する。	/	
		②	トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内				
		③	アブロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	14日前まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【ハマキムシ・シンクイムシ・モモハモグリガ対策はコンフューザーMM120本/10a】									
開花前	せん孔細菌病 縮葉病	①	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—	350%	(1) 開花始め以降は葉害が発生するので散布しない。 (2) ICボルドー412に代えてクプロシールド1,000倍(発病前～発病初期—)を散布してもよい。	/	
		せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り発病枝は見つけしだい基部から剪除し、癒合促進のためパッチレート(3回以内)を塗布する。風当たりの強い園地では防風ネットを必ず設置する。また、スピードスプレーヤーで防除する場合、風量を葉が傷まない程度に落として防除する。(生育期間)							
落花直後 (80%落花時)	うどんこ病・黒星病 炭疽病・灰星病 ホモフシス腐敗病 黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	①	オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	350%		/	
		②	デランフロアブル	600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内				
		③	フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。									
前回散布 10日後	灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病 せん孔細菌病 アブラムシ類 カメムシ類・シンクイムシ類	①	トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	7日前まで 5回以内	400%	(1) せん孔細菌病の発生が多い園地では、ICシンク水和剤1,000倍(発病前～発病初期8回以内)を5月中に単用で追加散布する。	/	
		②	マイコシールド	2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内				
		③	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策はスカシパコンL50~100本/10a】【ハマキムシ対策はハマキコンN150本/10a(すでにコンフューザーMMを設置した場合は必要ない)】									
5月下旬 (5/25頃)	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 カイガラムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 カイガラムシ類 アブラムシ類・ハダニ類	①	デランフロアブル	600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%		/	
		②	ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	前日まで 4回以内				
		③	モベントフロアブル	2,000倍 (50ml)	7日前まで 3回以内				
6月上旬	黒星病・せん孔細菌病 果実赤点病 せん孔細菌病 アブラムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	①	ベンコゼブ水和剤	600倍 (166g)	21日前まで 3回以内	400%	さくらんぼ園地への飛散に注意	/	
		②	マイコシールド	2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内				
		③	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
ハダニ対策 ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。									
6月中旬	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ ハダニ類	①	デランフロアブル	600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%	(1) デランフロアブルは、果実に汚れがでる場合があるので乾きやすい時間帯に使用する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (3) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/	
		②	スカウトフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 5回以内				
		③	ダニオーテフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 1回				
6月下旬 (6/25頃)	黒星病・せん孔細菌病 灰星病・ホモフシス腐敗病 アブラムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類	①	デランフロアブル	600倍 (166ml)	7日前まで 4回以内	400%	(1) さくらんぼに飛散する恐れがある園地では、デランフロアブルをナリアWDG2,000倍(前日まで2回以内)に代えて散布する。(せん孔細菌病に適用なし) (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に葉害が生じるおそれがあるので注意する。	/	
		②	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
7月上旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 せん孔細菌病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	①	スクレアフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで 3回以内	400%	さくらんぼ園地への飛散に注意	/	
		②	バリダシン液剤5	500倍 (200ml)	7日前まで 4回以内				
		③	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
7月中旬 (袋かけ前)	黒星病 灰星病 カイガラムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類・ハマキムシ類 ハダニ類	①	インダーフロアブル	5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400%	(1) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト乳剤1,000倍(7日前まで1回)を単用散布する。 (展着剤は加用しない) コロマイト乳剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に葉害のおそれがあるので注意する。	/	
		②	ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	前日まで 4回以内				
		③	マイトコーネフロアブル	1,000倍 (100ml)	前日まで 1回				
7月下旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 カメムシ類 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①	ベルクートフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	(1) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
		②	テルスターフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで 2回以内				
8月上旬	灰星病・黒星病・炭疽病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類・シンクイムシ類 モモハモグリガ	①	オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%		/	
		②	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
8月以降、ナシヒメシンクイの発生が多いため、収穫を終了した園地でも、シンクイムシ類の防除を実施する。									
8月中旬	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (ハマキムシ類)	①	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで 2回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に葉害が生じるおそれがあるので注意する。	/	
		②	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで 3回以内				
8月下旬 (晩生種)	黒星病 灰星病 アブラムシ類・カイガラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類・カメムシ類	①	インダーフロアブル	5,000倍 (20ml)	前日まで 4回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/	
		②	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
9月上旬 (晩生種)	灰星病・黒星病 ホモフシス腐敗病 アブラムシ類 シンクイムシ類・モモハモグリガ	①	ベルクートフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。 (2) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/	
		②	スカウトフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで 5回以内				
9月中下旬 (晩生種)	うどんこ病・黒星病 灰星病・ホモフシス腐敗病 シンクイムシ類 ハマキムシ類・モモハモグリガ	①	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで 3回以内	400%	(1) 防除効果を高めるため、降雨前に散布する。	/	
		②	サムコルフロアブル10	5,000倍 (20ml)	前日まで 2回以内				
収穫後 (9月上旬以降)	せん孔細菌病 ハマキムシ類・ケムシ類 モモハモグリガ・コスカシバ シンクイムシ類	①	アビオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	400%	(1) ICボルドー412 30倍を使用できない園地では、トレノックスフロアブル500倍(7日前まで5回以内)を必ず散布する。 (2) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/	
		②	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—				
		③	フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内				
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	①	アビオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	400%	(1) せん孔細菌病対策として必ず防除を行う。但し、気象予報に注意し台風等風雨が予想される場合は事前に防除を行う。	/	
		②	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—				
(前回散布14日後)	せん孔細菌病	①	アビオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	400%		/	
		②	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—				
コスカシバの発生が多い園地では、ガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前1回)を樹幹及び主枝に十分散布する。									

防除時期		対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)		農業使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)	
発芽前 (平年5・7月発芽 3月23日頃)	<div>カイガラムシ類 うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 カイガラムシ類幼虫</div>	①	スプレーオイル	50倍 (2%)	発芽前—	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/		
		②	トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで6回以内		(2) 薬剤散布前に必ず粗皮削りを行う。			
		③	アブロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	30日前まで2回以内		(3) 5月中旬まで輪紋病のいぼ皮病斑は必ず削り取りトップジンMペースト(3回以内)を塗布する。			
胴枯病対策		西洋なしは胴枯病に弱く、薬剤だけでは防げないため、以下の耕種的防除を実施する。常日頃から園地を見て回り、早期発見に努める。病患部を少しでも残すと再発するので、発病部を発見したら剪除し、切れない枝は健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMペースト(3回以内)を塗布する。健全な樹勢を保ち枝の更新に努め、明るい風通しの良い園地づくりを目指す。							/	
4月下旬 (4/20頃)	ナシヒメシンクイ	①	ナシヒメコン	100本	—	100本	(1) 7月中旬(7/15頃)に10a当り50~100本を必ず追加設置する。	/		
前年、黒斑細菌病の発生がみられた園地では、開花前にICボルドー412 30倍を散布する。								/		
満開直後 (100%開花時)	<div>黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類</div>	①	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	21日前まで9回以内	400%	(1) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。	/		
		②	フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで2回以内		(2) 有機銅を含む剤(オキシンドー水和剤80、オキシラン水和剤)の総使用回数は12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)とする。			
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。										
胴枯病・カイガラムシ対策として、散布ムラのないように枝幹に十分かかるように散布する。										
5月上中旬 (落花1週間後)	<div>うどんこ病 黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 アブラムシ類・カメムシ類 シンクイムシ類</div>	①	アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	400%	(1) 胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝は病部を確認し、徹底して取り除き処分する。	/		
		②	トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで6回以内		(2) 訪花昆虫の活動時間前(15℃になる前)にできるだけ防除を終了する。			
		③	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
5月下旬 (5/25頃)	<div>黒星病・黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫</div>	①	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	21日前まで9回以内	500%	(1) 輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので散布間隔をあげないよう7月下旬まで枝幹にも十分散布する。	/		
		②	ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	14日前まで6回以内		(2) キャプタンを含む剤(オキシラン水和剤、オーソサイド水和剤80)の総使用回数は9回以内とする。			
		③	バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)					
仕上げ摘果は4頂芽に1果を目安とし、落花後40日頃(6月上旬)まで終わらせる。基部から数えて2~4番目の果実を残す。										
6月上旬	<div>うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 カイガラムシ類・アザミウマ類 アブラムシ類・ハダニ類</div>	①	トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで6回以内	500%	(1) この回以降、輪紋病・胴枯病の重要な防除時期であるので、防除間隔があかないようにする。	/		
		②	モベントフロアブル	2,000倍 (50ml)	14日前まで3回以内		(2) 散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行う。			
		③	バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)		(3) さくらんぼに隣接している園地では、トップジンM水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。			
ハダニ対策		ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。								
6月中旬	<div>心腐れ症(胴枯病菌)病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 ハダニ類</div>	①	デランフロアブル	1,000倍 (100ml)	60日前まで4回以内	500%	(1) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/		
		②	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内		<div>さくらんぼ園地への飛散に注意</div>			
		③	ダニコングフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで1回					
		④	バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)					
6月下旬 (6/25頃) 前回散布10日後	<div>黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 アブラムシ類 カメムシ類 シンクイムシ類 ハダニ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ</div>	①	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
		②	テルスターフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで2回以内		(2) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので、養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。			
		③	コルト顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで3回以内		(3) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。			
		④	バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍 (100g)	— (肥料登録)		<div>輪紋病(胴枯病)対策</div> <div>さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、ナリアWDGに代えてオキシラン水和剤600倍(21日前まで9回以内)を散布する。</div>			
※有機銅剤散布後すぐに降雨があった場合追加散布する。 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。										
7月上旬	<div>黒星病 黒斑病 輪紋病 カメムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類</div>	①	アピオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%	(1) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤に代えてファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで3回以内)を散布する。	/		
		②	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	21日前まで9回以内					
		③	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
7月中旬	<div>黒星病 黒斑病 輪紋病 ハマキムシ類・アブラムシ類 シンクイムシ類 コナカイガラムシ類若齢幼虫 ハダニ類</div>	①	アピオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%	(1) 殺ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/		
		②	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	21日前まで9回以内		(2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤2,000倍(前日まで1回)を単用散布する。コロマイト水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害のおそれがあるので注意する。			
		③	ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	14日前まで6回以内		以降も、ハダニ類の発生が続く園地では、カネマイトフロアブル1,000倍(前日まで1回)にアカリタッチ乳剤2,000倍(前日まで—)を加用し散布する。(展着剤は加用しない)			
		④	マイトコーネフロアブル	1,000倍 (100ml)	前日まで1回					
7月中旬 (7/15頃)	ナシヒメシンクイ	①	ナシヒメコン	50~100本	—	50~100本		/		
7月下旬	<div>黒星病 黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類</div>	①	アピオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	500%		/		
		②	オキシラン水和剤	600倍 (166g)	21日前まで9回以内					
		③	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
8月上旬	<div>うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 アブラムシ類 シンクイムシ類 ハマキムシ類</div>	①	トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで6回以内	500%	(1) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
		②	バイスロイドEW	2,000倍 (50ml)	7日前まで2回以内		<div>輪紋病対策</div> <div>早生種に飛散する恐れがない園地では、収穫前日数に注意し、オキシラン水和剤600倍(21日前まで9回以内)を加用散布する。</div>			
8月中旬	<div>黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ</div>	①	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
		②	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで3回以内		(2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。			
		③	コルト顆粒水和剤	3,000倍 (33g)	前日まで3回以内					
8月下旬	<div>うどんこ病・黒星病 胴枯病・腐らん病 輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類</div>	①	アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500%		/		
		②	トップジンM水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで6回以内					
		③	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
9月上旬	<div>黒星病・炭疽病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類</div>	①	アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	500%		/		
		②	オーソサイド水和剤80	600倍 (166g)	3日前まで9回以内					
		③	ディアナWDG	5,000倍 (20g)	前日まで2回以内					
9月中旬	<div>黒星病・黒斑病 輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類</div>	①	パレード15フロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで2回以内	500%	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
		②	アグロスリン水和剤	1,000倍 (100g)	前日まで3回以内					
9月下旬	<div>黒斑病・炭疽病 黒星病・輪紋病 シンクイムシ類 ハマキムシ類</div>	①	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
		②	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで3回以内					

※ オキシラン水和剤は、令和8年(2026)3月に登録内容の変更を予定しております。防除暦には変更後の内容を反映し記載しております。

令和8年 りんご病害虫防除暦 (No1)



	防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㍓)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)	
	散布前までに輪紋病の原因となる、いば皮病斑をけずり取りトップジンMペースト（3回以内）を塗布する。						/		
	発芽直前 〔平年ふじ発芽 3月30日頃〕	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍（2㍓）	発芽前 —	350㍓	（1）マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/		
		ハダニ類		前日まで 6回以内					
		腐らん病		② トップジンM水和剤 1,000倍（100g）					30日前まで 5回以内
		黒星病		③ トレノックスフロアブル 500倍（200ml）					30日前まで 2回以内
		カイガラムシ類幼虫	④ アブロードフロアブル 1,000倍（100ml）						
黒星病対策として雨前散布を原則とし、散布間隔を10日以上あけない。薬液は十分量（400㍓以上/10a）散布する。									
黒	展葉期 〔花そう葉が2～3枚 展葉した頃〕 雨前散布	黒星病 斑点落葉病 輪紋病 褐斑病・炭疽病	① ICボルドー412 30倍（3.3kg）	—	400㍓	（1）ICボルドー412を散布できない園地では、アイヤーエース10,000倍にパスポート顆粒水和剤1,000倍（45日前まで3回以内）を加用散布する。	/		
	前回散布7日後 雨前散布	黒星病 モニリア病	① アイヤーエース（展着剤） 10,000倍（10ml） ② ストライド顆粒水和剤 1,500倍（66g）	— 開花前まで 2回以内	400㍓	（1）ストライド顆粒水和剤は、開花前までの総使用回数を2回以内とする。	/		
フェロモン剤設置時期（4月20日頃）【 ナシヒメシンクイ対策はナシヒメコン100本/10a 】									
星	摘花剤の散布	摘花剤としてエコーキー100～150倍（2回以内）を、満開日（側花が7～8割開花した時期）に散布する。えき花芽を対象に追加散布を要する場合は1回目散布の2～3日後に散布する。10a当たり300～600㍓めしへに充分薬液がかかるように散布する。（中心花の結実が良好と思われる場合に使用）SSで散布する場合はファンを止めて散布する。						/	
	特別散布 防除間隔があく場合 雨前散布	斑点落葉病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病	① トレノックスフロアブル 500倍（200ml）	30日前まで 5回以内	400㍓		/		
	開花直前 〔平年ふじ開花始 5月2日頃〕 雨前散布	黒星病・褐斑病 黒点病・うどんこ病 斑点落葉病・赤星病 斑点落葉病 黒星病・褐斑病 黒点病・輪紋病 炭疽病・赤星病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 キンモンホソガ	① カナメフロアブル 4,000倍（25ml） ② トレノックスフロアブル 500倍（200ml） ③ フェニックスフロアブル 4,000倍（25ml）	前日まで 3回以内 30日前まで 5回以内 前日まで 2回以内	400㍓	（1）訪花昆虫の活動時間前（15℃になる前）にできるだけ防除を終了する。	/		
重	ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤（BT剤を除く）の散布は行わない。								
	落花直後 ふじの中心花 80%落花時 雨前散布	うどんこ病 黒星病・褐斑病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病 黒星病・炭疽病	① アイヤーエース（展着剤） 10,000倍（10ml） ② スコア顆粒水和剤 3,000倍（33g） ③ ジマンダイセン水和剤 600倍（166g）	— 14日前まで 3回以内 30日前まで 3回以内	400㍓	（1）腐らん病の発生している園地では、トップジンM水和剤1,000倍（前日まで6回以内）を必ず散布する。 （2）ハマキムシ類の発生が見られる園地では、パイオマックスDF 2,000倍を加用散布する。（前日まで—） （3）マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずるおそれがあるので注意する。	/		
	腐らん病対策	常日頃から腐らん病に注意して園地を見て回り、早期発見に努める。発病部を発見したら病患部は、健全部を含めて大きく削り取り、トップジンMオイルペースト原液（3回以内）を塗布する。病患部が幹全体におよんでいる場合は、樹全体を処分（根元から切り取り処分）する。枝腐らんは切り取り処分する。							
	前回散布 7日後 雨前散布	黒星病・褐斑病・炭疽病 赤星病・斑点落葉病 黒点病・モニリア病 うどんこ病・褐斑病 黒星病・腐らん病 アブラムシ類・カメムシ類 リンゴワタムシ	① ジマンダイセン水和剤 600倍（166g） ② トップジンM水和剤 1,000倍（100g） ③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍（50g） ④ バイカルティ（カルシウム肥料） 1,000倍（100g）	30日前まで 3回以内 前日まで 6回以内 前日まで 3回以内 — （肥料登録）	500㍓	（1）マンゼブ剤は高温時に薬害が生ずるおそれがあるので注意する。	/		
除	5月下旬 （落花15日後） 雨前散布	黒星病・褐斑病 黒点病・赤星病 斑点落葉病・輪紋病 コアオカシミカメ・リンゴワタムシ カイガラムシ類・アブラムシ類	① アントラコール顆粒水和剤 500倍（200g） ② トランスフォームフロアブル 2,000倍（50ml） ③ バイカルティ（カルシウム肥料） 1,000倍（100g）	45日前まで 4回以内 前日まで 3回以内 — （肥料登録）	500㍓	（1）リンゴワタムシの発生が多い園地では、主幹部までていねいに散布する。 <div>さくらんぼ園地への飛散に注意</div>	/		
	6月上旬 雨前散布	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 カイガラムシ類・アブラムシ類 リンゴワタムシ	① ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍（33g） ② モベントフロアブル 2,000倍（50ml） ③ バイカルティ（カルシウム肥料） 1,000倍（100g）	前日まで 3回以内 14日前まで 3回以内 — （肥料登録）	500㍓	<div>黒星病対策</div> さくらんぼに飛散する恐れがない園地では、 トレノックスフロアブル 500倍 （30日前まで5回以内）を加用散布する。	/		
	前年、モモシンクイガの発生が多かった園地では、カルホス微粒剤Fを10a当り5kg（夏蒔営繕時～第一世代成虫羽化期4回以内）6月中旬～7月に2回地表面散布する。								
ハダニ対策		ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。							
果実腐敗病害重点防除時期	6月中旬 （6/15頃） 雨前散布	黒星病・黒点病 うどんこ病 斑点落葉病・赤星病 カメムシ類・シンクイムシ類 リンゴワタムシ ハダニ類	① アクサーフロアブル 2,000倍（50ml） ② バリアード顆粒水和剤 2,000倍（50g） ③ ダニコングフロアブル 2,000倍（50ml） ④ バイカルティ（カルシウム肥料） 1,000倍（100g）	14日前まで 3回以内 前日まで 3回以内 前日まで 1回 — （肥料登録）	500㍓	（1）ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 （2）有機銅剤は満開40日（6月中旬）以前の散布はサビ果の発生を多くするので早期散布をさける。 （3）リンゴワタムシの発生が多い園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍（前日まで3回以内）を加用散布する。	/		
	6月下旬 （6/25頃） 雨前散布	黒星病 黒点病・褐斑病 斑点落葉病・輪紋病 アブラムシ類・カメムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類・ハダニ類 アブラムシ類・カイガラムシ類 リンゴワタムシ	① ナリアWDG 2,000倍（50g） ② テルスターフロアブル 3,000倍（33ml） ③ コルト顆粒水和剤 3,000倍（33g） ④ バイカルティ（カルシウム肥料） 1,000倍（100g）	前日まで 3回以内 前日まで 1回 前日まで 3回以内 — （肥料登録）	500㍓	（1）降雨等により防除間隔があくと褐斑病が発生しやすくなるので注意する。 （2）ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 （3）テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 （4）コルト顆粒水和剤は、西洋なし（ル・レクチェ）に薬害、さくらんぼの果実に汚れを生じるおそれがあるので注意する。	/		
	※ 薬剤散布を行う場合は、気温25℃以上の時は散布を控えるとともに、散布後急激に温度が上がる事が予想される場合も散布を控える。								
	仕上げ摘果は遅くとも6月下旬まで終わらせる。（昂林は7月中旬まで）								

防除時期		対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)		農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
果 実 腐 敗 病 害 重 点 防 除	7月上旬 雨前散布	黒 星 病 ・ 黒 点 病 輪 紋 病 斑 点 落 葉 病 ア ブ ラ ム シ 類 カメムシ類・キンモンホソガ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類	① アイヤーエース（展着剤）	10,000倍（10ml）	—	500%	(1) 斑点落葉病の伝染源を少なくするため余分な徒長枝は剪除する。 (2) 有機銅剤は散布後降雨があると、薬害が発生するので注意する。 (特につがる、スターキングデリシャス、王林) (3) さくらんぼに隣接している園地では、オキシラン水和剤をファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍（前日まで3回以内）に代えて散布する。 (4) キャプタンを含む剤（オキシラン水和剤、ダイパワー水和剤、アリエッティC水和剤）の総使用回数は6回以内とする。	/	
			② オキシラン水和剤	700倍（142g）	14日前まで 4回以内				
			③ スタークル顆粒水溶剤	2,000倍（50g）	前日まで 3回以内				
	7月中旬 雨前散布	黒 星 病 ・ 黒 点 病 輪 紋 病 斑 点 落 葉 病 ア ブ ラ ム シ 類 キ ン モ ン ホ ソ ガ ナ シ ヒ メ シ ン ク イ ナ ミ ハ ダ ニ リ ン ゴ ハ ダ ニ	① オキシラン水和剤	700倍（142g）	14日前まで 4回以内	500%	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト水和剤2,000倍（前日まで1回）を単用散布する。 コロマイト水和剤は、西洋なし（ル・レクチェ）に薬害のおそれがあるので注意する。 以降も、ハダニ類の発生が続く園地では、カネマイトフロアブル1,000倍（7日前まで1回）にアカリタッチ乳剤2,000倍（前日まで—）を加用し散布する。 (展着剤は加用しない) 青つがる（益用）には、オキシラン水和剤に代えてダイパワー水和剤1,000倍（前日まで6回以内）、ダイアジノン水和剤34に代えてオリオン水和剤401,000倍（前日まで2回以内）を散布する。	/	
			② ダイアジノン水和剤34	1,000倍（100g）	30日前まで 4回以内				
			③ マイトコーネフロアブル	1,000倍（100ml）	前日まで 1回				
	7月下旬 (7/25頃) 雨前散布	黒 星 病 ・ 黒 点 病 輪 紋 病 斑 点 落 葉 病 褐 斑 病 ・ 黒 星 病 輪 紋 病 カメムシ類・シンクイムシ類 リ ン ゴ ワ タ ム シ	① アイヤーエース（展着剤）	10,000倍（10ml）	—	500%	青つがる（益用）には、オキシラン水和剤に代えてアリエッティC水和剤800倍（前日まで3回以内）を散布する。	/	
			② オキシラン水和剤	700倍（142g）	14日前まで 4回以内				
			③ トップジンM水和剤	1,000倍（100g）	前日まで 6回以内				
			④ バリアード顆粒水和剤	2,000倍（50g）	前日まで 3回以内				
落果防止剤の使用		「つがる」は収穫開始予定日の約21日前に、ヒオモン水溶剤2,000倍を10a当たり350～400%散布する。その後追加散布を要する場合は7～10日程度後に2回目散布を行う。（収穫開始予定日の21日～4日前2回以内）						/	
8月上旬	黒 星 病 ・ 黒 点 病 輪 紋 病 斑 点 落 葉 病 アブラムシ類・カメムシ類 ギンモンハモグリガ・ハマキムシ類 キンモンホソガ・シンクイムシ類	① オキシラン水和剤	700倍（142g）	14日前まで 4回以内	500%	(1) 有機銅を含む剤（オキシラン水和剤等）の総使用回数は7回以内（但し、塗布は3回以内、散布は4回以内）とする。 (2) バイスロイドEWは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 早生種の散布は収穫14日前まで終了する。	/		
		② バイスロイドEW	2,000倍（50ml）	7日前まで 4回以内					
8月中旬	黒 星 病 黒 点 病 ・ 褐 斑 病 斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 アブラムシ類・カイガラムシ類 リ ン ゴ ワ タ ム シ	① アイヤーエース（展着剤）	10,000倍（10ml）	—	500%	(1) ナリアWDGは、西洋なし（ル・レクチェ）・ぶどう（ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ）に薬害が生じるおそれがあるので注意する。 (2) コルト顆粒水和剤は、西洋なし（ル・レクチェ）に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
		② ナリアWDG	2,000倍（50g）	前日まで 3回以内					
		③ コルト顆粒水和剤	3,000倍（33g）	前日まで 3回以内					
8月下旬	黒 星 病 ・ 斑 点 落 葉 病 輪 紋 病 ・ 褐 斑 病 すす点病・すす斑病 カメムシ類・シンクイムシ類 リ ン ゴ ワ タ ム シ	① アイヤーエース（展着剤）	10,000倍（10ml）	—	500%		/		
		② ダイパワー水和剤	1,000倍（100g）	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内					
		③ バリアード顆粒水和剤	2,000倍（50g）	前日まで 3回以内					
9月上旬	褐 斑 病 すす点病・すす斑病 斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 シ ン ク イ ム シ 類 ハ マ キ ム シ 類 キ ン モ ン ホ ソ ガ	① ベルクートフロアブル	1,500倍（66ml）	前日まで 6回以内 但し、開花期以降は3回以内	500%	(1) 腐らん病対策として、収穫した早生種（つがる）にも散布を行う。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
		② アグロスリン水和剤	1,000倍（100g）	前日まで 2回以内					
落果防止剤の使用 (平年値)	ヒオモン水溶剤2,000倍を10a当たり300～600%散布する。（収穫開始予定日の21日～4日前2回以内）						/		
	昂林 9月 1日頃			王林 10月 1日頃					
	やたか・千秋 9月 5日頃			こうとく 1回散布の場合：10月10日頃 2回散布の場合：1回目10月1日頃 2回目10月15日頃					
	紅玉・スターキング 9月10日頃								
		秋陽 9月10日頃							
9月中下旬	褐 斑 病 すす点病・すす斑病 炭 疽 病 ハ マ キ ム シ 類 シ ン ク イ ム シ 類	① ストライド顆粒水和剤	1,500倍（66g）	開花から 収穫前日まで 3回以内	500%	(1) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前は2回以内、開花後から収穫前日までは3回以内とする。	/		
		② エクシレルSE	2,500倍（40ml）	前日まで 3回以内					
9月下旬～10月上旬 降雨が多い場合の 特別散布	褐 斑 病 すす点病・すす斑病 炭 疽 病	① ストライド顆粒水和剤	1,500倍（66g）	開花から 収穫前日まで 3回以内	500%	(1) 今回以降収穫前まで、低温で降雨が続く場合は、ナリアWDG2,000倍（前日まで3回以内）を散布する。 (2) ストライド顆粒水和剤の総使用回数は、開花前は2回以内、開花後から収穫前日までは3回以内とする。	/		
休眠期	腐 ら ん 病 黒 星 病	① アピオン-E（展着剤）	2,000倍（50ml）	—	400%	(1) 腐らん病（黒星病）防除のため、必ず散布する。	/		
		② トップジンM水和剤	1,000倍（100g）	前日まで 6回以内					
		③ ベルクート水和剤	2,000倍（50g）	前日まで 6回以内 但し、開花期以降散布は3回以内					
黒星病対策	黒星病の発生が多い園地では来年の越冬菌密度を低下させる為、耕種の防除としてDL消石灰（100kg程度/10a）を散布する。								

※ オキシラン水和剤は、令和8年(2026)3月に登録内容の変更を予定しております。防除暦には変更後の内容を反映し記載しております。

晩腐病対策のためのカサかけ・枝かけ具の徹底

1. 第2回ジベ処理直後できる限り早くカサかけを行なう。

2. カサかけが遅れると効果が劣る。

3. カサかけは、雨もりを防ぐため果梗に密着するよう丁寧に行なう。

4. カサかけと枝かけ具の併用は、更に効果が高い。
5. 枝かけ具は休眠期から5月下旬までにかけて、その後風などでずれた場合は効果が劣るので随時手直しする。

6. 収穫後できるだけ早く除去する。

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量／水100㍓)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期	晩腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200㍓	(1) 前年の肩とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は、晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ブドウトラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を加用散布する。	／	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。							
展葉2～3枚 (5月上旬)	枝膨病・晩腐病 黒とう病・べと病	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml)	落弁期まで (但し、75日前まで) 2回以内	200㍓	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	／	
	カメムシ類 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 ブドウトラカミキリ	② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
第1回目ジベレリン処理は満開予定日の約14日前に100ppm(2㍓の水に薬量は200mg)で実施する。 処理が遅れた場合は、アグレプト液剤1,000倍を加用して処理する。						／	
開花直前 第1回ジベ処理後 (6月上旬)	晩腐病・黒とう病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	300㍓	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／	
	うどんこ病・べと病 灰色かび病	② テーク水和剤 1,000倍 (100g)	45日前まで 2回以内				
	コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	③ アグロスリン水和剤 2,000倍 (50g)	21日前まで 5回以内				
落花直後 (6月中旬)	晩腐病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病・べと病	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 3回以内	300㍓	(1) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (2) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	／	
	カメムシ類・コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
第2回目ジベレリン処理は満開約10日後に75ppm(2㍓の水に薬量は150mg)で実施する。						／	
第2回ジベ処理後 (6月下旬)	黒とう病・晩腐病 さび病・灰色かび病	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	300㍓	(1) 6月下旬になると、晩腐病の胞子が雨によって多く飛散するので、ていねいに散布する。	／	
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。						
7月上旬	黒とう病 晩腐病・褐斑病 灰色かび病・うどんこ病	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	7日前まで 3回以内	300㍓	(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	／	
	ハダニ類	② コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
べと病・さび病の多発する園地では、7月上中下旬の3回棚上面からICボルドー66D 50倍(300㍓以上／10a)を散布する。						／	
仕上げ摘房は、坪当たり45房を目安に7月上旬頃まで終了する。							
収穫直後	べと病 さび病	① アビオンーE(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	300㍓	(1) さび病、べと病の発生が多い園地では、9月上中旬にもICボルドー66D50倍(発病前～発病初期一)を散布する。 (2) ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を散布する。 ガットキラー乳剤はアブラナ科野菜(はくさい、せいさい、だいこん)などに薬害があるので注意する。	／	
	スカシバ類	② ICボルドー66D 50倍 (2kg)	発病前～発病初期 —				
	ハマキムシ類 ケムシ類	③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 2回以内				

令和8年 ぶどう（大粒種）病害虫防除暦

（ シャインマスカット・キャンベル・ナイヤガラ・スチューベン・ピオーネ・巨峰等 ）



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍率 (薬量/水100㍓)		農薬使用基準 収穫前使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)	
		露地栽培	雨よけハウス栽培						
休眠期 (ビニール被覆前)	晩腐病 黒とう病 つる割病	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	① デランフロアブル 200倍 (500ml)	休眠期 1回	200㍓	(1) 前年の肩とり残しの部分や巻ヒゲ及び結果母枝の枯死部分などの除去は晩腐病防除に重要であるので徹底する。 (2) 前年晩腐病が発生した園地では、結果母枝にトップジンMペースト3倍液(休眠期3回以内)を塗布する。なお、萌芽後の使用は薬害が生じる恐れがあるので、必ず萌芽前に使用する。 (3) 前年ブドウトラカミキリの発生が多かった園地では、訪花昆虫の活動前にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を加用散布する。	／		
晩腐病・べと病の発生が多い園地では、展葉初期までに100倍を単用散布する。								／	
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護するため、りんごの花が終わるまで殺虫剤の散布は行わない。									
展葉2～3枚 (5月上中旬)	枝影病・晩腐病 黒とう病・べと病 チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 カメムシ類 ブドウトラカミキリ	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml)	① デランフロアブル 1,000倍 (100ml)	落弁期まで (但し、75日前まで) 2回以内	200㍓	訪花昆虫の活動がない時に散布する。	／		
		② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	② スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内					
展葉7～8枚 (5月下旬)	黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病 うどんこ病 黒とう病・さび病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	200㍓	(1) この回以降、マンゼブを含む剤(ペンコゼブ水和剤、テーク水和剤等)を使用する場合、総使用回数は2回以内とする。	／		
		② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)	45日前まで 2回以内					
		③ マネージDF 5,000倍 (20g)		21日前まで 3回以内					
クビアカスカシバ対策	フェニックスフロアブル500倍(開花前まで1回)を樹幹部に十分かかるようにいねいに単用散布する。						／		
開花前 (6月上旬)	晩腐病 黒とう病 晩腐病・褐斑病 さび病・べと病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ スカシバ類	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml)	① ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 3回以内	300㍓	(1) コウモリガの加害時期なので、幹周辺を清掃し、見つけ次第捕殺する。 さくらんぼ園地への飛散に注意	／		
		② ペンコゼブ水和剤 1,000倍 (100g)		45日前まで 2回以内					
		③ パダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	② パダンSG水溶剤 1,500倍 (66g)	14日前まで 2回以内					
商品性の高い果実を生産するため、満開前に房づくりを行う。									
落花直後 (6月中旬)	灰色かび病・べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病・枝影病 べと病 チャノキイロアザミウマ ハスモンヨトウ ブドウサビダニ	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	30日前まで 3回以内	300㍓	(1) 満開時の散布をさける。 (2) 汚染防止のため、この時期より展着剤を使わない。 (3) アミスター10フロアブルはりんごに薬害が出るので絶対に飛散しない様に注意する。	／		
		② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	② ベトファイター顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	30日前まで 3回以内					
		③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	③ グレーシアフロアブル 4,000倍 (25ml)	7日前まで 2回以内					
6月下旬	うどんこ病・褐斑病 黒とう病・さび病 灰色かび病 べと病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	① カナメフロアブル 4,000倍 (25ml)		前日まで 3回以内	300㍓		／		
		② アリエッティ水和剤 800倍 (125g)		30日前まで 3回以内					
		③ ティアナWDG 10,000倍 (10g)		前日まで 2回以内					
ハダニ対策	ダニ剤散布7日前に除草剤を使用するか、ダニ剤散布4日前に草刈を実施する。								
落花15日後 (7月上旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ		① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	7日前まで 3回以内	300㍓	(1) ダニ剤を散布する場合は通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 露地栽培で、べと病が発生した場合は、ベトファイター顆粒水和剤2,000倍(30日前まで3回以内)を単用散布する。	／		
			② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内					
			③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内					
	べと病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ハダニ類	① ランマンフロアブル 2,000倍 (50ml)		14日前まで 3回以内					
		② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)		前日まで 3回以内					
		③ コロマイト水和剤 2,000倍 (50g)		7日前まで 2回以内					
袋かけ前 (7月中旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキイロアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	250㍓	(1) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	／		
		② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	② テルスターフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 1回					
袋かけ直後 (7月下旬)	べと病 黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 チャノキイロアザミウマ コガネムシ類	① レーバスフロアブル 3,000倍 (33ml)		7日前まで 3回以内	250㍓	(1) さび病の多発する園地では、100倍(発病前～発病初期)を棚上から散布する。	／		
		② フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	① フルーツセイバー 1,500倍 (66ml)	7日前まで 3回以内					
		③ テッパン液剤 2,000倍 (50ml)	② テッパン液剤 2,000倍 (50ml)	前日まで 2回以内					
収穫前 (8月中旬)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・さび病 灰色かび病・うどんこ病 カメムシ類・コガネムシ類 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	250㍓	(1) さび病、べと病の多発する園地では、この回以降も100倍(発病前～発病初期)を棚上から散布する。	／		
		② ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)		前日まで 3回以内					
収穫後	べと病 さび病 スカシバ類 ハマキムシ類 ケムシ類	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml)	① アピオン-E(展着剤) 2,000倍 (50ml)	—	300㍓	(1) ブドウトラカミキリの多い園地では、休眠期にガットキラー乳剤100倍(落葉後～萌芽前2回以内)を散布する。ガットキラー乳剤はアブラ科野菜(ハクサイ、青菜、ダイコン)などに薬害があるので注意する。	／		
		② 100倍 50倍 (2kg)	② 100倍 50倍 (2kg)	発病前～発病初期 —					
		③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	③ フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	14日前まで 2回以内					

【植物成長調整剤使用基準】 (シャインマスカット・ピオーネ等)

使用薬剤	満開予定14日前 ～開花始期	使用時期		使用回数
		1回目 満開時から満開3日後	2回目 満開10～15日後	
アグレプト液剤	1,000倍			1回
ジベレリン粉末		12.5～25ppm	25ppm	2回
フルメット液剤		2～5ppm (10cc当り5～2㍓)		1回
フラスター液剤	①新梢展開葉10～11枚時(開花始期まで) 2,000倍(150㍓/10a) 1回目 ②満開10～20日後(但し、収穫60日前まで) 1,000倍(300㍓/10a) 2回目 ※フラスター液剤は、新梢伸長抑制効果があるため、樹勢が弱い樹には使用しない。			2回以内

ジベレリン粉末 1包当りの水量

剤型	成分量 (1包当り)	ジベレリン濃度	
		12.5ppm	25ppm
粉末1号	50mg	4㍓	2㍓
粉末3号	200mg	16㍓	8㍓

令和8年 すもも(フルーン)病害虫防除暦



防除時期		対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)		農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)	
発芽前	カイガラムシ類	①	スプレーオイル	50倍 (2%)	発芽前—	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ好天の続く時に使用する。	/		
	ふくろみ病	②	トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	14日前まで3回以内		(2) 発芽前までに遅れない様に散布する。			
	カイガラムシ類幼虫	③	アブロードフロアブル	1,000倍 (100ml)	14日前まで2回以内		(3) 枝を洗うようにていねいに散布する。			
フェロモン剤設置時期(4月20日頃)【 ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ対策は、ナシヒメコン100本/10a 】									/	
黒斑病	開花前	黒斑病 かいう病	①	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—	350%	(1) 前年、黒斑病・かいう病が発生した園地では必ず散布する。 (2) 開花前までに遅れないように散布する。	/	
	4月下旬 (満開3日後)	黒斑病	①	アイヤーエース(展着剤)	10,000倍 (10ml)	—	350%		/	
		②	マイコシールド	2,000倍 (50g)	21日前まで3回以内					
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。										
重点防除	5月上旬	黒星病	①	オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで3回以内	400%	(1) ふくろみ病の被害果は見つけ次第摘み取り土中深く埋める。	/	
		灰星病	②	アグレプト水和剤	1,000倍 (100g)	30日前まで2回以内				
		かいう病 ケムシ類 シンクイムシ類 コスカシバ ハマキムシ類	③	フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで2回以内				
5月中旬 (殺虫剤解禁直後)	炭疽病	①	トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	14日前まで3回以内	400%		/		
	ふくろみ病	②	マイコシールド	2,000倍 (50g)	21日前まで3回以内					
	黒斑病	③	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【 コスカシバ対策はスカシバコンL50~100本/10a、ハマキムシ対策はハマキコンーN150本/10a 】									/	
5月下旬	炭疽病	①	トレノックスフロアブル	500倍 (200ml)	14日前まで3回以内	400%		/		
	ふくろみ病	②	ダイアジノン水和剤34	1,000倍 (100g)	21日前まで4回以内					
	アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 アブラムシ類	③	モベントフロアブル	2,000倍 (50ml)	7日前まで3回以内					
6月上旬	黒星病	①	オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで3回以内	400%	早生種の散布は収穫21日前まで終了する。	/		
	灰星病	②	マイコシールド	2,000倍 (50g)	21日前まで3回以内					
	黒斑病	③	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで2回以内					
6月中旬	アブラムシ類	①	スカウトフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで3回以内	400%	(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 (2) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。	/		
	シンクイムシ類	②	ダニオーテフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで1回					
6月下旬	灰星病	①	ナリアWDG	2,000倍 (50g)	前日まで2回以内	400%	(1) ナリアWDGは、西洋なし(ル・レクチェ)ぶどう(ピオーネ、藤稔、サニールージュ、シャルドネ)に薬害が生じるおそれがあるので注意する。	/		
	黒星病	②	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
7月上旬	灰星病	①	インダーフロアブル	5,000倍 (20ml)	前日まで4回以内	400%		/		
	ケムシ類	②	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで3回以内					
7月中旬	黒星病	①	スクレアフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで3回以内	400%	(1) ダニ剤を散布する場合は、通常防除時より薬液を多く準備し、散布ムラのないように十分散布する。 (2) 今回以降、ハダニ類の発生が多い園地では、コロマイト乳剤1,000倍(前日まで1回)を単用散布する。 コロマイト乳剤は、西洋なし(ル・レクチェ)に薬害のおそれがあるので注意する。	/		
	灰星病	②	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 (50g)	前日まで3回以内					
	アブラムシ類 カイガラムシ類 シンクイムシ類	③	マイトコーネフロアブル	1,000倍 (100ml)	3日前まで1回					
7月下旬	アブラムシ類 メムシ類 シンクイムシ類	①	テルスターフロアブル	3,000倍 (33ml)	前日まで2回以内	400%	(1) テルスターフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。	/		
8月上旬中 (8/10頃)	黒星病	①	オンリーワンフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで3回以内	400%		/		
	灰星病	②	バリアード顆粒水和剤	2,000倍 (50g)	前日まで2回以内					
8月中下旬 (8/20頃)	灰星病	①	アミスター10フロアブル	1,000倍 (100ml)	前日まで3回以内	400%	(1) スカウトフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用しない。 <div>晩生種のみ散布する。</div>	/		
	すす点病	②	スカウトフロアブル	2,000倍 (50ml)	前日まで3回以内					
9月上旬 (除袋後)	シンクイムシ類	①	インダーフロアブル	5,000倍 (20ml)	前日まで4回以内	400%	<div>晩生種のみ散布する。</div>	/		
	アブラムシ類	②	エクシレルSE	2,500倍 (40ml)	前日まで3回以内					
黒斑病重点防除	収穫後	黒斑病	①	アピオンーE(展着剤)	2,000倍 (50ml)	—	400%	黒斑病の多発した園地では、ICボルドー412 30倍を前回散布14日後に追加散布する。	/	
		灰星病	②	ICボルドー412	30倍 (3.3kg)	—				
		かいう病	③	フェニックスフロアブル	4,000倍 (25ml)	前日まで2回以内				
コスカシバの発生が多い園地では、ガットキラー乳剤100倍(落葉後〜萌芽前1回)を樹幹及び主枝に十分散布する。(100~450%/10a)									/	

令和8年 うめ病害虫防除暦



防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100㍓)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
3月中旬 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2㍓)	発芽前	350㍓	(1) 品種や系統によって発芽時期が異なるので適期防除に努める。 (2) マシン油等を使用するときは、低温時の使用をさけ、好天の続くときに使用する。	/	
	黒星病	② トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内				
	カイガラムシ類幼虫	③ アブロードフロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 2回以内				
4月下旬 (落花直後)	黒星病 すす斑病	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	350㍓	(1) ヤニ吹き果の多い樹では、この回以降3回、ヨーヒB5、800倍を加用散布する。	/	
		② オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	21日前まで 3回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤(BT剤を除く)の散布は行わない。							
5月上旬	黒星病 すす斑病 アブラムシ類	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400㍓	(1) 訪花昆虫保護のため、訪花昆虫の活動前(15℃になる前)に防除を終了する。	/	
		② ナリアWDG 2,000倍 (50g)	7日前まで 2回以内				
		③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
フェロモン剤設置時期(5月20日頃)【コスカシバ対策 スカシバコンL 50~100本/10a】						/	
5月中旬 (5/20頃)	黒星病	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	21日前まで 2回以内	400㍓		/	
6月上旬	アブラムシ類 アメリカシロヒトリ シンクイムシ類 ハマキムシ類	① アイヤーエース(展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400㍓		/	
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	21日前まで 2回以内				
6月中旬 (6/15頃)	黒星病・すす斑病 灰星病 アブラムシ類 シンクイムシ類 アカマダラケシキスイ	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	400㍓	(1) 日中高温時(25℃以上)の散布はさける。	/	
		② バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	前日まで 2回以内				
		ハダニ類が発生した場合は、ダニオーテフロアブル2,000倍(前日まで1回)を散布する。					
9月中旬 (収穫後)	ケムシ類 コスカシバ	① フェニックスフロアブル 4,000倍 (25ml)	前日まで 2回以内	400㍓		/	

令和8年 かき病害虫防除暦

防除時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量／水100%)	農薬使用基準 収穫前使用日数 使用回数	散布量 (10a)	注意事項	月日	防除実績 (メモ)
休眠期 (発芽前)	カイガラムシ類	① スプレーオイル 50倍 (2%)	発芽前	350%	(1) マシン油等を使用する時は、低温時の使用をさけ 好天の続く時に使用する。	／	
	カイガラムシ類 幼虫	② アブロード水和剤 1,000倍 (100g)	開花期まで 但し、45日前まで 2回以内				
ミツバチ・マメコバチ等の訪花昆虫を保護する為、りんごの花が終わるまで殺虫剤 (BT剤を除く) の散布は行わない。							
5月中旬	アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノハタムシガ	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	400%		／	
		② モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
開花直前 (5月下旬頃)	落葉病・炭疽病 すす アメリカシロヒトリ ハマキムシ類 オオウタコナカイガラムシ 若齢幼虫	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		／	
		② オーソサイド水和剤80 1,000倍 (100g)	7日前まで 5回以内				
		③ ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
満開期 (6／10頃)	炭疽病・うどんこ病 落葉病・灰色かび病 アザミウマ類 カキノハタムシガ カメムシ類	① オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50ml)	前日まで 3回以内	500%	(1) 落葉病とアザミウマ類防除の重要な時期なので、 遅れないように葉裏まで、ていねいに散布する。 (2) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極 めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使 用しない。	／	
		② アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
6月中下旬	炭疽病・落葉病 うどんこ病 アザミウマ類 カキノヒメヨコバイ	① トレノックスフロアブル 500倍 (200ml)	30日前まで 2回以内	500%		／	
		② ダントツ水溶剤 4,000倍 (25g)	7日前まで 3回以内				
7月中旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カキノハタムシガ カメムシ類	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%	(1) アグロスリン水和剤は、魚類に対する毒性が極 めて強いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使 用しない。	／	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
		③ アグロスリン水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで 3回以内				
7月下旬	落葉病・炭疽病 うどんこ病 アザミウマ類 カイガラムシ類 カメムシ類 カキノヒメヨコバイ カキノハタムシガ	① アイヤーエース (展着剤) 10,000倍 (10ml)	—	500%		／	
		② オキシンドー水和剤80 1,000倍 (100g)	14日前まで 5回以内				
		③ モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで 3回以内				
8月上中旬	落葉病・炭疽病 黒点病・すす点病 うどんこ病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類 オオウタコナカイガラムシ 若齢幼虫	① アミスター10フロアブル 1,000倍 (100ml)	7日前まで 3回以内	500%	(1) アザミウマ類防除の特に重要な時期である。 (2) 降雨の続く場合は、落葉病対策としてさらに 9月上旬にナリアWDG2,000倍 (前日まで 2回以内) を散布する。但し、ナリアWDGは、 西洋なし (ル・レクチェ)、ぶどう (ビオーネ、 藤稔、サニールージュ、シャルドネ) に葉害が 生じるおそれがあるので注意する。 (3) チャノキイロアザミウマの発生が多い場合は、 9月上旬にテルスターフロアブル3,000倍 (3日前まで2回以内) を散布する。テルスタ ーフロアブルは、魚類に対する毒性が極めて強 いので養魚池、河川等の近くでは絶対に使用し ない。	／	
		② ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	45日前まで 4回以内				
カメムシ類の発生が多い場合は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 (前日まで3回以内) を散布する。							／